

害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

客カ特ニ寄託セサル物ト雖モ場屋中ニ携帶シタル物カ場屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任ス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

等三百三十九條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ客カ其種類及ヒ價格ヲ明告シテ之ヲ前條ノ場屋ノ主人ニ寄託シタルニ非サレハ其場屋ノ主人ハ其物ノ滅失又ハ毀損ニ因リ

テ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

第三百四十條 前二條ニ定メタル責任ハ場屋ノ主人カ寄託物ヲ返還シ又ハ客カ携帶品ヲ持

去リタル後一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ客カ場屋ヲ去リタル時ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ場屋ノ主人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二節 倉庫營業

第三百四十一條 倉庫營業者トハ他人ノ爲メニ物品ヲ倉庫ニ保管スルヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百四十二條 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニ因リ寄託物ノ預證券及ヒ質入證券ヲ交付ス

ルコトヲ要ス

第三百四十三條 預證券及ヒ質入證券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ倉庫營業者之ニ署名

スルコトヲ要ス

一 受寄物ノ種類、品質、數量、荷造ノ種類、個數及ヒ配號

二 寄託者ノ氏名又ハ商號

三 保管ノ場所

四 保管料

五 管保ノ期間ヲ定メタルトキハ其期間

六 受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ保險金額、保險期間及ヒ保險者ノ氏名又ハ商號

七 其他寄託契約ノ要領

八 預證券及ヒ質入證券ノ作成地並ニ其作成ノ年月日

九 倉庫營業者ノ營業所

第三百四十四條 預證券及ヒ質入證券ヲ寄託者ニ交付シタルトキハ倉庫營業者ハ其帳簿ニ

左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 前條第一號、第二號及ヒ第四號乃至第七號ニ掲ケタル事項

商法商 行爲 寄託 總則 倉庫營業

二 預證券及ヒ質入證券ノ番號及ヒ其作成ノ年月日

第三百四十五條 預證券及ヒ質入證券ヲ作リタルトキハ倉庫營業者ト所持人トノ間ニ於テハ寄託ニ關スル事項ハ其證券ノ定ムル所ニ依ル

第三百四十六條 預證券及ヒ質入證券ノ所持人ハ倉庫營業者ニ對シ寄託物ヲ分割シ且其各部分ニ對スル預證券及ヒ質入證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ所持人ハ前ノ預證券及ヒ質入證券ヲ倉庫營業者ニ返還スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル寄託物ノ分割及ヒ證券ノ交付ニ關スル費用ハ所持人之ヲ負擔ス

第三百四十七條 預證券及ヒ質入證券ヲ作リタルトキハ寄託物ニ關スル處分ハ其證券ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十八條 預證券及ヒ質入證券ハ其ノ記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ質入スルコトヲ得但證券ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

預證券ノ所持人カ未タ質入ヲ爲ササル間ハ預證券及ヒ質入證券ハ各別ニ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

第三百四十九條 第三百十九條ノ規定ハ預證券ニ之ヲ準用ス

第三百五十條 預證券又ハ質入證券カ滅失シタルトキハ其所持人ハ相當ノ擔保ヲ供シテ更

ニ其證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ倉庫營業者ハ其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百五十一條 質入證券ニ第一ノ質入裏書ヲ爲スニハ債權額、其利息及ヒ辨濟期ヲ記載スルコトヲ要ス

第一ノ質權者カ前項ニ掲ケタル事項ヲ預證券ニ記載シテ之ニ署名スルニ非サレハ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十二條 預證券ノ所持人ハ質入證券ニ記載シタル債權ノ辨濟期前ト雖モ其債權ノ全額及ヒ辨濟期マテノ利息ヲ倉庫營業者ニ供託シテ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ從ヒテ供託シタル金額ハ質入證券ト引換ニ之ヲ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第三百五十三條 質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサルトキハ爲替手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

質入證券ノ所持人ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタル後ニ非サレハ寄託物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百五十四條 倉庫營業者ハ競賣代金ノ中ヨリ競賣ニ關スル費用、受寄物ニ課スヘキ租

商法 商行爲 寄託 總則 倉庫營業

税、保管料其他保管ニ關スル費用及ヒ立替金ヲ控除シタル後其殘額ヲ質入證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

競賣代金ノ中ヨリ前項ニ掲ケタル費用、租税、保管料、立替金及ヒ質入證券所持人ノ債權額、利息、拒絶證書作成ノ費用ヲ控除シタル後餘剩アルトキハ倉庫營業者ハ之ヲ預證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第三百五十五條 競賣代金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ全部ヲ辨濟スルコト能ハサルシトキハ倉庫營業者ハ其支拂ヒタル金額ヲ質入證券ニ記載シテ其證券ヲ返還シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百五十六條 質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ債務者其他ノ裏書人ニ對シテ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三百五十七條 質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサリシ場合ニ於テ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキ又ハ拒絶證書作成ノ日ヨリ二週間内ニ寄託物ノ競賣ヲ請求セザリシトキハ裏書人ニ對スル請求權ヲ失フ

第三百五十八條 債務者其他ノ裏書人ニ對スル質入證券所持人ノ請求權ハ辨濟期ヨリ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百五十九條 寄託者又ハ預證券ノ所持人ハ營業時間内ニ限リ何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢若クハ其見本ノ抽出ヲ求メ又ハ其保存ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得質入證券ノ所持人ハ營業時間内ニ限リ何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢ヲ求ムルコトヲ得

第三百六十條 倉庫營業者ハ自己又ハ其使用人カ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ其滅失又ハ毀損ノ損害ニ付キ賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百六十一條 倉庫營業者ハ受寄物出庫ノ時ニ非サレハ報酬及ヒ立替金其他受寄物ニ關スル費用ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス但受寄物ノ一部ノ出庫ノ場合ニ於テハ割合ニ應シテ其支拂ヲ請求スルコトヲ得

第三百六十二條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ倉庫營業者ハ受寄物入庫ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタル後ニ非サレハ其返還ヲ爲スコトヲ得ス但己ムコトヲ得サル事由アルトキハ此限ニ在ラス

第三百六十三條 預證券及ヒ質入證券ヲ作りタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレハ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百六十四條 第二百七十條ノ規定ハ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコト

ヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第三百六十五條 第三百三十二條ノ規定ハ倉庫營業者ニ之ヲ準用ス

第三百六十六條 寄託物ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル倉庫營業者ノ責任ハ其出庫ノ日

ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ寄託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ倉庫營業者カ預證券ノ所持人、若シ其所

持人カ知レサルトキハ寄託者ニ對シテ其滅失ノ通知ヲ發シタル日ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ倉庫營業者ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第十章 保險

第一節 損害保險

第一款 總則

第三百六十七條 損害保險契約ハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコト

アルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ

其效力ヲ生ス

第三百六十八條 保險契約ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ニ限り之ヲ以テ其目的ト爲ス

コトヲ得

第三百六十九條 保險金額カ保險契約ノ目的ノ價額ニ超過シタルトキハ其超過シタル部分

ニ付テハ保險契約ハ無効トス

第三百七十條 同一ノ目的ニ付キ同時ニ數個ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其保險金額

カ保險價額ニ超過シタルトキハ各保險者ノ負擔額ハ各自ノ保險金額ノ割合ニ依リテ之ヲ

定ム

數個ノ保險契約カ同一ナルトキハ其契約ハ同時ニ爲シタルモノト推定ス

第三百七十一條 相次テ數個ノ保險契約ヲ爲シタルトキハ前ノ保險者先ツ損害ヲ負擔シ若

シ其負擔額カ損害ノ全部ヲ填補スルニ足ラサルトキハ後ノ保險者之ヲ負擔ス

第三百七十二條 保險價額ノ全部ヲ保險ニ付シタル後ト雖モ左ノ場合ニ限り更ニ保險契約

ヲ爲スコトヲ得

一 前ノ保險者ニ對スル權利ヲ後ノ保險者ニ讓渡スコトヲ約シタルトキ

二 前ノ保險者ニ對スル權利ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スヘキコトヲ後ノ保險者ニ約シタ

ルトキ

三 前ノ保險者カ損害ノ填補ヲ爲ササルコトヲ條件トシタルトキ

第三百七十三條 同時ニ又ハ相次テ數個ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險者ノ一人ニ

商法 商行爲 保險 損害保險 總則

對スル權利ノ拋棄ハ他ノ保險者ノ權利義務ニ影響ヲ及ホサス

第三百七十四條 保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第三百七十五條 保險價額カ保險期間中著シク減少シタルトキハ保險契約者ハ保險者ニ對シテ保險金額及ヒ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得但保險料ノ減額ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

第三百七十六條 保險者カ填補スヘキ損害ノ額ハ其損害カ生シタル地ニ於ケル其時ノ價額ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ損害額ヲ計算スルニ必要ナル費用ハ保險者之ヲ負擔ス

第三百七十七條 前條第一項ノ規定ニ拘ハラス當事者カ保險價額ヲ定メタルトキハ保險者ハ其價額ノ著シク過當ナルコトヲ證明スルニ非サレハ其填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百七十八條 戰爭其他ノ變亂ニ因リテ生シタル損害ハ特約アルニ非サレハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

第三百七十九條 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者、被保險者

若クハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

第三百八十條 保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサルコト又ハ既ニ生シタルコトヲ知レルトキハ其契約ハ無効トス

第三百八十一條 保險契約者カ保險契約ヲ爲スニ當タリ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ其契約ハ無効トス但保險者カ其事實ヲ知り又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラス

第三百八十二條 保險契約ノ全部又ハ一部カ無効ナル場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ保險者ニ對シテ保險料ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三百八十三條 保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ附シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニ於テ保險期間中其危險カ消滅シタルトキハ保險契約者ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

第三百八十四條 保險契約ハ他人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第三百八十五條 保險契約者カ委任ヲ受ケスシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨ヲ保險者ニ告ケサルトキハ其契約ハ無効トス若シ之ヲ告ケタルトキハ被保險者ハ當然其契約ノ利益ヲ享受ス

第三百八十六條 保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險証券ヲ交付スルコトヲ要ス

保險証券ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險者之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 保險ノ目的
- 二 保險者ノ負擔シタル危險
- 三 保險價額ヲ定メタルトキハ其價額
- 四 保險金額
- 五 保險料及ヒ其支拂ノ方法
- 六 保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期
- 七 保險契約者ノ氏名又ハ商號
- 八 保險契約ノ年月日
- 九 此他保險契約ノ要領
- 十 保險証券作成ノ年月日

第三百八十七條 被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定ス

前項ノ場合ニ於テ保險ノ目的ノ讓渡カ著シク危險ヲ變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第三百八十八條 保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ相當ノ擔保ヲ供セシメ又ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス但保險契約者カ既ニ保險料ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ此限ニ在ラス

第三百八十九條 他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シテ保險料ヲ請求スルコトヲ得但被保險者カ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

第三百九十條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テハ保險契約者ハ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第三百九十一條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラスシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險カ生セサルニ至リタ

ルトキハ保險者ハ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還スルコトヲ要ス

第三百九十二條 前二條ノ場合ニ於テハ保險者ハ其返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得

第三百九十三條 保險期間中危險カ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

第三百九十四條 保險契約者又ハ被保險者カ危險ノ著シク變更又ハ増加シタルコトヲ知りタルトキハ遲滞ナク之ヲ保險者ニ通知スルコトヲ要ス若シ其通知ヲ怠リタルトキハ保險者ハ危險ノ變更又ハ増加ノ時ヨリ保險契約カ其效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得但保險者カ既ニ危險ノ變更又ハ増加ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス
保險者カ前項ノ通知ヲ受ケタル後遲滞ナク契約ノ解除ヲ爲ササルトキハ其契約ヲ承認シタルモノト看做ス

第三百九十五條 保險者ノ負擔シタル危險ノ發生ニ因リテ損害カ生シタル場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其損害ノ生シタルコトヲ知りタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百九十六條 保險ノ目的ニ付キ保險者ノ負擔スヘキ損害カ生シタルトキハ其後ニ至リ

其目的カ保險者ノ負擔セサル危險ノ發生ニ因リテ滅失シタルトキト雖モ保險者ハ其損害ヲ填補スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百九十七條 被保險者ハ損害ノ防止ヲカムルコトヲ要ス但之カ爲メニ必要又ハ有益ナリシ費用及ヒ填補額カ保險金額ニ超過スルトキト雖モ保險者之ヲ負擔ス

第三百七十四條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百九十八條 保險ノ目的ノ全部カ滅失シタル場合ニ於テ保險者カ保險金額ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ被保險者カ其目的ニ付キ有セル權利ヲ取得ス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ權利ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第三百九十九條 損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ヲ支拂ヒタルトキハ其支拂ヒタル金額ノ限度ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ第三者ニ對シテ有スル權利ヲ取得ス

保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ノ一部ヲ支拂ヒタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テノミ前項ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第四百條 保險金額支拂ノ義務ハ二年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス保險料支拂

ノ義務ニ付キ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第四百一條 本節ノ規定ハ相互保險ニ之ヲ準用ス但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款 火災保險

第四百二條 火災ニ因リテ生シタル損害ハ其火災ノ原因如何ヲ問ハス保險者之ヲ填補スル責ニ任ス但第三百七十八條及ヒ第三百七十九條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四百三條 消防又ハ避難ニ必要ナル處分ニ因リ保險ノ目的ニ付キ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スルコトヲ要ス

第四百四條 賃借人其他他人ノ物ヲ保管スル者カ其支拂フコトアルヘキ損害賠償ノ爲メ其物ヲ火災保險ニ付シタルトキハ所有者ハ保險者ニ對シテ直接ニ其損害ノ填補ヲ請求スルコトヲ得

第四百五條 火災保險證券ニハ第三百八十六條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險ニ付シタル建物所在ノ場所、構造及ヒ用方
- 二 動産ヲ保險ニ付シタルトキハ之ヲ貯藏セル建物所在ノ場所構造及ヒ用方

第三款 運送保險

第四百六條 保險者ハ特約ナキトキハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡ス時マテニ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第四百七條 運送品ノ保險ニ付テハ發送ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ到達地マテノ運送賃其他ノ費用ヲ以テ保險價額トス

運送品ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益ハ特約アルトキニ限り之ヲ保險價額中ニ算入ス
第四百八條 運送保險證券ニハ第三百八十六條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 運送ノ道筋及ヒ方法
 - 二 運送人氏名又ハ商號
 - 三 運送人カ運送品ノ授受ヲ爲ス場所
 - 四 運送期間ノ定アルトキハ其期間
 - 五 航行中寄港スヘキトキハ其場所
- 第四百九條 保險契約ハ特約アルニ非サルハ運送上ノ必要ニ因リ一時運送ヲ中止シ又ハ運送ノ道筋若クハ方法ヲ變更セシトキト雖モ其效力ヲ失ハス

商法 施行篇 保險 損害保險 火災保險

第二節 生命保險

第四百十條 生命保險契約ハ當事者ノ一方カ相手方又ハ第三者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百十一條 保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者、其相續人又ハ親族ナルコトヲ要ス
保險契約ニ因リテ生シタル權利ハ被保險者ノ親族ニ限りテ譲受クルコトヲ得

保險金額ヲ受取ルヘキ者カ死亡シタルトキ又ハ被保險者ト保險金額ヲ受取ルヘキ者トノ親族關係カ止ミタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メ又ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第四百十二條 生命保險證券ニハ第三百八十六條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險契約ノ種類
- 二 被保險者ノ氏名
- 三 保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名及ヒ其者ト被保險者ノ親族關係

第四百十三條 左ノ場合ニ於テハ保險者ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス

- 一 被保險者カ自殺、決闘其他ノ犯罪又ハ死刑執行ニ因リテ死亡シタルトキ
 - 二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ但其者カ保險金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニ於テハ保險者ハ其殘額ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス
- 前項第一號ノ場合ニ於テハ保險者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第四百十四條 第三百七十八條、第三百八十四條、第三百八十六條第一項、第三百八十八條乃至第三百九十條、第三百九十三條、第三百九十四條及ヒ第三百九十九條乃至第四百一條ノ規定ハ生命保險ニ之ヲ準用ス

第三百七十八條、第三百八十八條、第三百九十條、第三百九十三條及ヒ第三百九十四條ノ場合ニ於テ保險者カ保險金額ヲ支拂フコトヲ要セサルトキハ保險者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第四編 手形

第一章 爲替手形

第一節 總則

第四百十五條 爲替手形ニ署名シタル者ハ其爲替手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百十六條 代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ記載セスシテ爲替手形ニ署名シタルトキ

ハ本人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百十七條 偽造又ハ變造シタル爲替手形ニ署名シタル者ハ其偽造又ハ變造シタル爲替手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

署名者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定ス

偽造者又ハ變造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ偽造又ハ變造シタル爲替手形ヲ取得シタル者ハ手形上ノ權利ヲ有セス

第四百十八條 無能力者カ爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ取消シタルトキト雖モ他ノ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ホサス

第四百十九條 本章ニ規定ナキ事項ハ之ヲ爲替手形ニ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生セス

第四百二十條 爲替手形ノ債務者ハ本章ニ規定ナキ事由ヲ以テ手形上ノ請求ヲ爲ス者ニ對

商法 手形 爲替手形 總則

抗スルコトヲ得ス但直接ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ハ此限ニ在ラス

第四百二十一條 何人ト雖モ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ爲替手形ヲ取得シタル者ニ對シ其爲替手形ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百二十二條 爲替手形ノ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニスル呈示、拒絕證書ノ作成其他手形上ノ權利ノ行使及ヒ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ其營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但其者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

利害關係人ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ拒絕證書ヲ作ルヘキ公證人又ハ執達吏ハ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ要ス若シ問合ヲ爲スモ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ其役場ニ於テ拒絕證書ヲ作ルコトヲ得

第四百二十三條 爲替手形ノ引受人ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

所持人ノ振出人其他ノ前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書作成ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス裏書人ノ振出人其他ノ前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキ亦同シ

第四百二十四條 爲替手形ヨリ生シタル債權カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人又ハ引受人ニ對シ其受クタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二節 振出

第四百二十五 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 其爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 支拂人ノ氏名又ハ商號
- 四 受取人ノ氏名又ハ商號
- 五 單純ナル支拂ノ委託
- 六 振出ノ年月日
- 七 一定ノ滿期日
- 八 支拂地

第四百二十六條 爲替手形ノ主タル部分ニ記載シタル金額カ他ノ部分ニ記載シタル金額ト異ナリタルトキハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額トス

商法 手形 爲替手形 振出

第四百二十七條 振出人ハ自己ヲ受取人又ハ支拂人ト定ムルコトヲ得

第四百二十八條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百二十九條 爲替手形ハ其金額三十圓以上ノモノニ限り之ヲ無記名式ト爲スコトヲ得

第四百三十條 満期日ハ左ニ掲ケタル種類ノ一タルコトヲ要ス

一 確定セル日

二 日附後確定セル時期ヲ經過シタル日

三 一覽ノ日

四 一覽後確定セル時期ヲ經過シタル日

第四百三十一條 振出人カ爲替手形ニ満期日ヲ記載セザリシトキハ一覽ノ日ヲ以テ其爲替手形ノ満期日トス

第四百三十二條 振出人カ特ニ爲替手形ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ其爲替手形ニ記載シタル支拂人ノ住所地ヲ以テ其支拂地トス

第四百三十三條 支拂地カ支拂人ノ住所地ト異ナルトキハ他人ヲ以テ支拂擔當者トシテ爲替手形ニ記載スルコトヲ得

第四百三十四條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第三節 裏書

第四百三十五條 爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但振出人カ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百三十六條 振出人、引受人又ハ裏書人カ裏書ニ依リテ爲替手形ヲ讓受ケタルトキハ更ニ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百三十七條 裏書ハ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ被裏書人ノ氏名若クハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ爾後爲替手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百三十八條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百三十九條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得

第四百四十條 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ其裏書人ハ被裏書人ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

商法 手形爲替手形及裏書

第四百四十一條 裏書人カ其署名ノミヲ以テ裏書ヲ爲シタルトキハ所持人ハ自己ヲ其被裏書人ト爲スコトヲ得

第四百四十二條 支拂拒絶證書作成ノ期間ヲ經過シタル後所持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス此場合ニ於テハ其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百四十三條 所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ質入ヲ爲シ又ハ其取立ノ代理ヲ委任スルコトヲ得此場合ニ於テハ裏書ニ其目的ヲ附記スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得

第四百四十四條 裏書アル爲替手形ノ所持人ハ其裏書カ連續スルニ非サレハ其權利ヲ行フコトヲ得ス但署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アルトキハ次ノ裏書人ハ其裏書ニ因リテ爲替手形ヲ取得シタルモノト看做ス

第四節 引受

第四百四十五條 所持人ハ何時ニテモ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ得

第四百四十六條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ支拂人ニ爲替手

形ヲ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ爲替手形ニ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得

所持人カ前項ニ定メタル呈示ヲ爲サリシトキハ振出人其他ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百四十七條 所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ其引受ヲ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セサリシトキハ所持人ハ呈示期間內ニ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絶證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ振出人其他ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ
引受人カ引受ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第四百四十八條 引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ支拂人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス
支拂人カ爲替手形ニ署名シタルトキハ其引受ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百四十九條 支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲スコトヲ得

辦法 手形 爲替手形 引受

前項ノ場合ヲ除ク外支拂人カ爲替手形ノ單純ナル引受ヲ爲ササリシトキハ其引受ヲ拒絕シタルモノト看做ス但引受人ハ其引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百五十條 支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リ満期日ニ於テ其引受タル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百五十一條 引受人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシ場合ニ於テ其所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ金額ハ第四百七十一條又ハ第四百七十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第四百五十二條 支拂地カ支拂人ノ住所地ト異ナル場合ニ於テ振出人カ爲替手形ニ支拂擔當者ヲ記載セサリシトキハ支拂人ハ其引受ヲ爲スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若シ支拂人カ之ヲ記載セサリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス責ニ任ス

振出人ハ爲替手形ニ其引受ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコトヲ得此場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ニ依リ其呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ振出人其他ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百五十三條 支拂人ハ引受ヲ爲スニ當タリ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第五節 擔保ノ請求

第四百五十四條 支拂人カ爲替手形ノ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ振出人其他ノ前者ニ對シ手形金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

支拂人カ手形金額ノ一部ニ付キ引受ヲ爲シタルトキハ所持人ハ其殘額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

第四百五十五條 爲替手形ノ所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ引受拒絕證書ヲ作ラシメ且擔保ヲ供セシメント欲スル者ニ對シ遲滞ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百五十六條 裏書人カ其後者ヨリ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ振出人其他ノ前者ニ對シ其擔保スヘキ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ擔保ヲ供セシメント欲スル者ニ對シ遲滞ナク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百五十七條 前三條ノ規定ニ依リテ擔保ノ請求ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク引受拒絕證書ト引換ニ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但擔保ニ代ヘテ相當ノ金額ヲ供託スルコトヲ得

第四百五十八條 振出人其他ノ前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其後者全員ノ商法 手形 爲替手形 擔保ノ請求

爲メ且其後者全員ニ對シテ之ヲ爲シタルモノト看做ス
所持人ハ裏書人カ第四百五十五條又ハ第四百五十六條第二項ニ定メタル通知ヲ發シタル
トキハ其通知ヲ受クル者ノ後者全員ノ爲メニシタルモノト看做ス

第四百五十九條 左ノ場合ニ於テハ第四百五十七條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力
ヲ失ヒ又供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得

- 一 後日ニ至リ爲替手形ノ單純ナル引受アリタルトキ
- 二 手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキ
- 三 擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者カ償還ヲ爲シタルトキ
- 四 手形上ノ權利カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ
- 五 擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ満期日ヨリ一年內ニ償還ノ請求ヲ受ケザリシ
トキ

第四百六十條 引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ擔保ヲ供セス且豫備支拂
人カ單純ナル引受ヲ爲サザリシトキハ所持人ハ振出人其他ノ前者ニ對シ相當ノ擔保ヲ請
求スルコトヲ得此場合ニ於テハ第四百五十四條乃至第四百五十八條ノ規定ヲ準用ス
前項ノ場合ニ於テ豫備支拂人ノ引受ヲ求ムルニハ拒絕證書ヲ作ラシメ且遲滞ナク其通知

ヲ發スルコトヲ要ス

第四百六十一條 左ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ又供
託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得

- 一 豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ
- 二 引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ
- 三 第四百五十九條第二號乃至第五號ノ場合

第六節 支拂

第四百六十二條 一覽拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ呈示シテ其
支拂ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ爲替手形ニ一年ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得
所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セザルトキハ手形上
ノ權利ヲ失フ

第四百六十三條 支拂ハ爲替手形ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス
支拂ヲ爲ス者ハ所持人ヲシテ爲替手形ニ受取ノ旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコト
ヲ得

第四百六十四條 手形金額ノ全部ニ付キ引受アリタルトキト雖モ所持人ハ其一部ノ支拂ヲ

商法 手形 爲替手形 支拂

拒ムコトヲ得ス

一部ノ支拂アリタルトキハ所持人ハ其旨ヲ爲替手形ニ記載シ且一部受取ノ旨ヲ記載シテ署名シタル謄本ヲ交付スルコトヲ要ス

第四百六十五條 爲替手形ノ支拂ノ請求ナキトキハ引受人ハ支拂拒絕證書作成ノ期間經過ノ後手形金額ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得

第七節 償還ノ請求

第四百六十六條 支拂人カ爲替手形ノ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ振出人其他ノ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百六十七條 所持人カ前條ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シ、若シ手形金額ノ支拂ナキトキハ満期日又ハ其後二日內ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシメ且償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ拒絕證書作成ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ振出人其他ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百六十八條 裏書人カ其後者ヨリ前條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ振出人其他ノ前

者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ償還ヲ爲サシメント欲スル者ニ對シ自己カ通知ヲ受ケタル日ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百六十九條 爲替手形ノ所持人ハ支拂拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキト雖モ其作成ヲ免除セシ者ニ對シテハ手形上ノ權利ヲ失フコトナシ

所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタルトキハ其作成ヲ免除セシ者ト雖モ其費用ヲ償還スル義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百七十條 支拂地カ支拂人ノ住所地ト異ナル場合ニ於テ所持人カ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ支拂擔當者ニ若シ爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂地ニ於テ支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス此場合ニ於テ支拂擔當者又ハ支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ支拂地ニ於テ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ支拂拒絕證書ヲ作ラシメ且償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

爲替手形ニ支拂擔當者ノ記載アル場合ニ於テ所持人カ前項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ引受人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ失フ

第四百七十一條 爲替手形ノ所持人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一 支拂アラサリシ手形金額及ヒ満期日以後ノ法定利息
 二 拒絶證書作成ノ手数料其他ノ費用
 前項ノ金額ハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地カ支拂地ト異ナル場合ニ於テハ支拂地ヨリ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ之ヲ計算ス若シ支拂地ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地ニ最モ近キ地ニ宛テ振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依ル

第四百七十二條 償還ノ請求ヲ受タル裏書人ハ左ノ金額ニ付キ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 一 其支拂タル金額及ヒ支拂ノ日以後ノ法定利息
 二 其支出シタル費用
 前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十三條 爲替手形ノ所持人又ハ裏書人ハ償還ノ請求ヲ爲ス爲メ振出人其他ノ前者ヲ支拂人トシテ更ニ爲替手形ヲ振出スコトヲ得

第四百七十四條 前條ノ規定ニ依リ所持人カ振出ス爲替手形ハ本爲替手形ノ支拂地ヲ以テ其振出地ト定メ償還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地ヲ以テ其支拂地ト定メタル一覽拂ノモノタルコトヲ要ス

裏書人カ振出ス爲替手形ニハ其住所地ヲ以テ振出地ト定ムルコトヲ要ス

第四百七十五條 償還ハ爲替手形、支拂拒絶證書及ヒ償還計算書ト引換ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス

償還ヲ爲ス者ハ之ヲ受クル者ヲシテ償還計算書ニ受取ノ旨ヲ記載セシメ且之ニ署名セシムルコトヲ得

第四百七十六條 第四百五十八條ノ規定ハ償還ノ請求ニ之ヲ準用ス

第八節 保證

第四百七十七條 爲替手形ヨリ生シタル債務ヲ保證スル爲メ爲替手形、其賸本又ハ補償ニ署名シタル者ハ其債務カ無効ナルトキト雖モ主タル債務者ト同一ノ責任ヲ負フ

第四百七十八條 何人ノ爲メニ保證ヲ爲シタルカ分明ナラサルトキハ其保證ハ引受人ノ爲メニ爲シタルモノト看做ス但未タ引受アラサリシトキハ振出人ノ爲メニ爲シタルモノト看做ス

第四百七十九條 保證人カ其債務ヲ履行シタルトキハ所持人カ主タル債務者ニ對シテ有シタル權利及ヒ主タル債務者カ其前者ニ對シテ有スヘキ權利ヲ取得ス

第九節 參加

商法 手形 爲替手形 保證 參加

第一款 參加引受

第四百八十條 爲替手形ノ所持人カ引受拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人アルトキハ其豫備支拂人ニ引受ヲ求メタル後ニ非サレハ振出人其他ノ前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルコトヲ得ス

豫備支拂人カ引受ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ引受拒絕證書ニ記載セシムルコトヲ要ス

第四百八十一條 爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人ニ非ル者ノ參加引受ヲ受諾スル義務ナシ

第四百八十二條 參加引受ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ其選擇ニ從ヒ其一人ノ引受ヲ受諾スルコトヲ得

第四百八十三條 參加引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載シ參加引受人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

參加引受人カ爲替手形ニ被參加人ヲ定メサリシトキハ其引受ハ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百八十四條 所持人ハ引受拒絕證書作成ノ費用ノ支拂ト引換ニ其證書ヲ參加引受人ニ

交付シ且其證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載セシムルコトヲ要ス

參加引受人ハ遲滞ナク前項ノ拒絕證書ヲ被參加人ニ送附スルコトヲ要ス

第四百八十五條 參加引受人ハ支拂人カ手形金額ノ支拂ヲ爲ササル場合ニ於テ被參加人ノ後者ニ對シ支拂アラサリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ但所持人カ満期日又ハ其後二日內ニ支拂ヲ求ムル爲メ爲替手形ヲ參加引受人ニ呈示ヒサルトキハ參加引受人ハ其義務ヲ免ル

第四百八十六條 爲替手形ノ所持人及ヒ被參加人ノ後者ハ參加引受ニ因リテ擔保ヲ請求スル權利ヲ失フ

第二款 參加支拂

第四百八十七條 爲替手形ノ所持人カ支拂拒絕證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ所持人ハ満期日又ハ其後二日內ニ參加引受人ニ、若シ參加引受人ナキトキ又ハ參加引受人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ニ爲替手形ヲ呈示シテ其支拂ヲ求メタル後ニ非サレハ振出人其他ノ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

參加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲ササリシトキハ所持人ハ其旨ヲ支拂拒絕證書ニ記

商法 手形 爲替手形 參加 支拂

載セシムルコトヲ要ス
 所持人カ前二項ニ定メタル手續ヲ爲ササリシトキハ豫備支拂人ノ指定者又ハ被參加人及
 ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ
 第四百八十八條 爲替手形ノ所持人ハ豫備支拂人又ハ參加引受ニ非サル者ノ參加支拂ト雖
 モ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ被參加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權
 利ヲ失フ

第四百八十九條 參加支拂ヲ爲サントスル者數人アルトキハ所持人ハ最モ多數ノ者ヲシテ
 債務ヲ免レシムル效力ヲ有スル支拂ヲ受クルコトヲ要ス

第四百九十條 所持人ハ手形金額及ヒ費用ノ支拂ト引換ニ支拂拒絕證書及ヒ爲替手形ヲ參
 加支拂人ニ交付シ且其拒絕證書ニ參加支拂アリタル旨ヲ記載セシムルコトヲ要ス

第四百九十一條 參加支拂人カ支拂ヲ爲シタルトキハ引受人、被參加人及ヒ其前者ニ對ス
 ル所持人ノ權利ヲ取得ス

第十節 拒絕證書

第四百九十二條 拒絕證書ハ爲替手形ノ所持人ノ請求ニ因リ公證人又ハ執達吏之ヲ作ル

第四百九十三條 拒絕證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ公證人又ハ執達吏之ニ署名スル事ヲ要ス

一 爲替手形、其謄本及ヒ補箋ニ記載シタル事項

二 拒絕者及ヒ被拒絕者ノ氏名又ハ商號

三 拒絕者ニ對シテ爲シタル請求ノ趣旨及ヒ拒絕者カ其請求ニ應セサリシコト又ハ拒
 絶者ニ面會スルコト能ハサリシ理由

四 前號ノ請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハサリシ地及ヒ年月日

五 拒絕者ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサル場合ニ於テ其地ノ官署又ハ公署ニ問合
 テ爲シタルコト

六 法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者カ之ヲ承諾セシコト

七 參加引受又ハ參加支拂アルトキハ參加ノ種類及ヒ參加人並ニ被參加人ノ氏名又ハ
 商號

第四百九十四條 數人ニ對シテ手形上ノ請求ヲ爲スヘキトキハ其請求ニ付キ一通ノ拒絕證
 書ヲ作成スルヲ以テ足ル

第四百九十五條 公證人又ハ執達吏カ拒絕證書ヲ作りタルキトハ其帳簿ニ其證書ノ全文ヲ
 記載スルコトヲ要ス

拒絕證書カ滅失シタルトキハ利害關係人ハ其謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此謄本ハ原

商法 手形 爲替手形 拒絕證書

本ト同一ノ效力ヲ有ス

第十一節 爲替手形ノ複本及ヒ贖本

第四百九十六條 爲替手形ノ所持人ハ振出人ニ對シテ其爲替手形ノ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但受取人以外ノ所持人ハ其前者ヲ經由シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス

振出人カ爲替手形ノ複本ヲ作りタルトキハ各裏書人ハ各通ニ其裏書ヲ爲スコトヲ要ス

第四百九十七條 爲替手形ノ複本ニ其複本タルコトヲ示ササルトキハ其各通ハ獨立ノ爲替手形トシテ其效力ヲ有ス

第四百九十八條 爲替手形ノ複本ヲ作りタル場合ニ於テ其一通ノ支拂アリタルトキハ他ノ各通ハ其效力ヲ失フ但引受アルモノハ此限ニ在ラス

二人以上ニ各別ニ數通ノ爲替手形ノ裏書ヲ爲シタル者又ハ數通ノ爲替手形ニ引受ヲ爲シタル者ハ支拂ノ時ニ於テ返還アラサリシ各通ニ付キ手形上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百九十九條 爲替手形ノ複本ノ所持人カ引受ヲ求ムル爲メ其一通ヲ送付シタルトキハ他ノ各通ニ其送付先ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ記載アル爲替手形ノ所持人ハ引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル一通ノ爲替手形ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ求ムルコトヲ得若シ其者カ之ヲ返還セサルトキハ拒絕證書

ニ依リ其事實及ヒ他ノ一通又ハ數通ノ爲替手形ヲ以テ引受又ハ支拂ヲ受クルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキニ限り振出人其他ノ前者ニ對シテ擔保又ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第五百條 爲替手形ノ所持人ハ其贖本ヲ作ルコトヲ得

爲替手形ノ贖本ニ或事項ヲ記載シタルトキハ其事項ト原本ニ記載シタル事項トヲ區別スルコトヲ要ス

第五百一條 所持人カ爲替手形ノ引受ヲ求ムル爲メ其原本ヲ送付シタル場合ニ於テ其贖本ヲ作りタルトキハ之ニ其原本ノ送付先ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ記載アル贖本ノ所持人ハ原本ヲ受取リタル者ニ對シテ其返還ヲ求ムルコトヲ得

第五百二條 引受ヲ求ムル爲メニ送付シタル爲替手形ヲ受取リタル者カ之ヲ返還セサル場合ニ於テ其贖本ノ所持人カ拒絕證書ニ依リテ其事實ヲ證明スルトキハ贖本ニ署名シタル者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲シ又贖本ニ記載シタル満期日カ到來シタル後ハ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章 約束手形

第五百三條 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人署名スルコトヲ要ス

商法 手形 爲替手形ノ複本及ヒ贖本 約束手形

- 一 其約束手形タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 受取人ノ氏名又ハ商號
- 四 單純ナル支拂ノ約束
- 五 振出ノ年月日
- 六 一定ノ満期日
- 七 振出地

第五百四條 振出人カ特ニ約束手形ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ振出地ヲ以テ其支拂地トス

第五百五條 一覽後定期拂ノ約束手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年内ニ振出人ニ約束手形ヲ呈示スルコトヲ要ス但振出人ハ約束手形ニ一年ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得所持人カ拒絕證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セザルトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第五百六條 所持人カ一覽後定期拂ノ約束手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ振出人カ呈示ヲ受ケタル旨又ハ其日附ヲ約束手形ニ記載セザリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絕證書ヲ

作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒絕證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキハ振出人以外ノ前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

振出人カ呈示ノ日附ヲ記載セザリシ場合ニ於テ所持人カ拒絕證書ヲ作ラシメザリシトキハ呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス

第五百七條 第四百十五條乃至第四百二十四條、第四百二十六條、第四百二十九條乃至第四百三十一條、第四百三十三條乃至第四百三十七條、第四百三十九條乃至第四百四十四條、第四百五十一條、第四百六十條乃至第四百七十九條、第四百八十七條乃至第四百九十五條及ヒ第五百條ノ規定ハ約束手形ニ之ヲ準用ス

第三章 小切手

第五百八條 小切手ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 其小切手タルコトヲ示スヘキ文字
- 二 一定ノ金額
- 三 支拂人ノ氏名又ハ商號
- 四 受取人ノ氏名若クハ商號又ハ所持人ニ支拂フヘキコト

商法 手形 小切手

五 單純ナル支拂ノ委託

六 振出ノ年月日

七 支拂地

第五百九條 小切手ノ振出人ハ自己ヲ受取人ト定ムルコトヲ得

第五百十條 小切手ハ一覽拂ノモノトス

第五百十一條 小切手ノ支拂人カ其引受ヲ爲シタルトキハ之ニ記載シタル金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第五百十二條 小切手ノ所持人ハ其日附ヨリ一週間内ニ小切手ヲ呈示シテ其支拂ヲ求ムルコトヲ要ス

所持人カ前項ニ定メタル呈示ヲ爲サザリシトキハ振出人其他ノ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百十三條 小切手ノ所持人カ振出人其他ノ前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スニハ支拂拒絶證書ノ作成ニ代ヘ支拂人ヲシテ前條第一項ニ定メタル期間内ニ支拂拒絶ノ旨及ヒ其年月日ヲ小切手ニ記載セシメ且之ニ署名セシムルヲ以テ足ル

第五百十四條 小切手ノ振出人又ハ所持人カ其表面ニ二條ノ平行線ヲ畫キ其線内ニ銀行ナ

ル文字ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得

振出人又ハ所持人カ平行線内ニ特定セル銀行ノ商號ヲ記載シタルトキハ支拂人ハ其銀行ニ對シテノミ支拂ヲ爲スコトヲ得但其銀行カ裏書ニ依リテ他ノ銀行ニ取立ノ代理ヲ委任スルコトヲ妨ケス

第五百十五條 左ノ場合ニ於テハ振出人ハ五圓以上千圓以下ノ過料ニ處セララル

一 資金ナク又ハ信用ヲ得スシテ小切手ヲ振出シタルトキ

二 小切手ニ虛偽ノ日附ヲ記載シタルトキ

第五百十六條 第四百十五條乃至第四百二十四條、第四百二十六條、第四百三十二條、第四百三十五條、第四百三十七條、第四百三十九條乃至第四百四十二條、第四百四十四條、第四百四十八條、第四百五十一條、第四百六十三條乃至第四百六十九條、第四百七十一條、第四百七十二條、第四百七十五條乃至第四百七十九條、第四百九十二條、第四百九十三條及ヒ第四百九十五條ノ規定ハ小切手ニ之ヲ準用ス

第五編 海商

第一章 船舶及船舶所有者

第五百十七條 本法ニ於テハ船舶トハ營利ノ目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他櫓權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第五百十八條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定ス

第五百十九條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未満ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第五百二十條 船舶所有者權ノ讓渡ハ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非ザレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百二十一條 航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス

第五百二十二條 差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ス但其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限ニ在ラス

商法 海商 船舶及船舶所有者

第五百二十三條 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶、運送貨及ヒ船舶所有者カ其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其實ヲ免ルルコトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セス

第五百二十四條 船舶所有者カ債權者ノ同意ヲ得シテ新ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ前條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第五百二十五條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第五百二十六條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利用ニ關スル費用ヲ支拂フコトヲ要ス

第五百二十七條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對

シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第五百二十八條 船舶共有者ハ其所分ノ價格ニ應シ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ辨濟スルノ責ニ任ス

第五百二十九條 損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應シテ之ヲ爲ス

第五百三十條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラス

第五百三十一條 船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リテ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取リ又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ社員ノ持分ノ移轉其他ノ事由ニ因リ會社其他ノ法人ノ所有ニ屬スル船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第五百三十二條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス
船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス

船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第五百三十三條 船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利

用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

一 船舶ノ讓渡、委付若クハ質貸ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコト

二 船舶ヲ保險ニ付スルコト

三 新ニ航海ヲ爲スコト

四 船舶ノ大修繕ヲ爲スコト

五 借財ヲ爲スコト

船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五百三十四條 船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載

スルコトヲ要ス

船舶管理人ハ毎航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承

認ヲ求ムルコトヲ要ス

第五百三十五條 船舶ノ質貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタ

ル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第五百三十六條 船舶ノ賃借人カ營利ノ目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其
利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス
前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付キ生シタル先取特權ハ船舶所有者ニ對シテモ其效力ヲ
生ス但先取特權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第二章 船員

第一節 船長

第五百三十七條 船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ
船舶所有者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

船長ハ船舶所有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船舶所有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定
メタル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百三十八條 海員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監
督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百三十九條 船長カ己ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサル
トキハ他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其選任ニ
付キ船舶所有者ニ對シテ其實ニ任ス

第五百四十條 船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓
セルヤ否ヤヲ検査スルコトヲ要ス

第五百四十一條 船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス

- 一 船舶國籍證書
- 二 屬具目錄
- 三 海員名簿
- 四 旅客名簿但小航海ヲ爲ス船舶ニ付テハ此限ニ在ラス
- 五 運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類
- 六 稅關ヨリ交付シタル書類
- 七 航海日誌

第五百四十二條 船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外荷物ノ船積及ヒ旅客ノ乗込ノ時ヨ
リ荷物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百四十三條 船長ハ航海ノ準備カ終ハリタルトキハ遲滞ナク發航ヲ爲シ且必要アル場
合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セスシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第五百四十四條 船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分

ヲ爲スコトヲ要ス

利害關係人ハ船長ノ行爲ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ
其實ヲ免ルルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百四十五條 船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外
ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止ノミヲ爲ス
權限ヲ有ス

第五百四十六條 船長ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ
得ス

第五百四十七條 船長ハ船舶ノ修繕、救援又ハ救助ノ費用其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル
費用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 船舶ヲ抵當ト爲スコト
- 二 借財ヲ爲スコト
- 三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質入スルコト但第五百四十四條第一項ノ場合ハ此
限ニ在ラス

商法 海商 船員 船長

船長カ積荷ヲ賣却又ハ買入シタル場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ到達スヘカリシ時ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但其價格中ヨリ支出スルコトヲ要セサル費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第五百四十八條 船長カ特ニ委任ヲ受ケスシテ航海ノ爲メニ費用ヲ出タシ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ第五百二十三條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第五百四十九條 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ船長ハ管海管廳又ハ領事ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣スルコトヲ得

第五百五十條 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス

一 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地ニ至ルコト能ハサルトキ

二 修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ヲ超ユルトキ

前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損前ニ有セシ價額トス

第五百五十一條 船長ハ航海ヲ繼續スル爲メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供スルコトヲ得此場合ニ於テハ第五百四十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百五十二條 船長ハ遲滞ナク航海ニ關スル重要ナル事項ヲ船舶所有者ニ報告スルコトヲ要ス

船長ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキハ何時ニテモ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第五百五十三條 船舶所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船舶所有者ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルトキハ遲滞ナク他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百五十四條 船長ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第二節 海員

第五百五十五條 海員ハ其雇入ノ手續カ終ハリタルトキハ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶

商法 海商 船員 海員

ニ乗込ムコトヲ要ス

海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其乗込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第五百五十六條 海員ノ服役中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百五十七條 海員カ服役中不行跡其他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痕ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ三ヶ月ヲ超エサル期間内ノ治療及ヒ看護ノ費用ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得但其職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痕ヲ受ケタルトキハ其給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百五十八條 一航海ニ付キ給料ヲ定メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ又ハ不可抗

力ニ因ラスシテ其里程ヲ延長シタルトキハ海員ハ其割合ニ應シテ給料ノ増加ヲ請求スル

コトヲ得但航海ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖モ給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第五百五十九條 海員カ就役ノ後死亡シタルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス

海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ負擔トス

第五百六十條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得

一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ

二 海員カ著シク其職務ヲ怠リタルトキ

三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷痕ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ

五 戰爭其他不可抗力ニ因リテ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ

前項第一號乃至第四號ノ場合ニ於テハ海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得

第一項第五號ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失ナキトキ亦同シ

第五百六十一條 海員カ前條ニ掲ケタル事由其他正當ノ理由ナクシテ雇止メラレタルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給料ノ外一个月分ノ給料ヲ請求スルコトヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百六十二條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ヲ請求スルコトヲ得

商法 海商 船員 海員

一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ

二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹リ又ハ傷痕ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ

三 船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百六十三條 航海中船舶ノ所有者カ變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對シ雇傭契約

ニ因リテ生シタル權利義務ヲ有ス

第五百六十四條 海員ノ雇入期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ海

員ヲ雇入レタルトキハ其期間ハ之ヲ一年ニ短縮ス

海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五百六十五條 雇入期間ノ定ナキトキハ海員ハ特約アル場合ヲ除ク外航海カ終了シ、船

舶カ安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸カ終ハリタル後ニ非サレハ其雇止ヲ請求

スルコトヲ得ス

第五百六十六條 海員ノ雇入契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 船舶カ沈没シタルコト

二 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルコト

三 船舶カ捕獲セラレタルコト

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第五百六十七條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ代

ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得

第五百六十八條 第五百五十四條ノ規定ハ海員ニ之ヲ準用ス

第三章 運送

第一節 物品運送

第一款 總則

第五百六十九條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ各當事者ハ相手方ノ請求ニ因リ運送契約書ヲ交付スルコトヲ要ス

第五百七十條 船舶所有者ハ傭船者又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ爲ス

ニ堪フルコトヲ擔保ス

第五百七十一條 船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ自己ノ過失、船員其他ノ使用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサルニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百七十二條 法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラスシテ船積シタル運送品ハ船長ニ於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ、若シ船舶又ハ積荷ニ危害ヲ及ホス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得但船長カ之ヲ運送スルトキハ其船積ノ地及ヒ時ニ於クル同種ノ運送品ノ最高ノ運送賃ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ船舶所有者其他ノ利害關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
第五百七十三條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ船積スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船舶所有者ハ運滞ナク備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

備船者カ運送品ヲ船積スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ船積シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ船積ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス

第五百七十四條 船長カ第三者ヨリ運送品ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長ハ直チニ備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ船積期間内ニ限り備船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得

第五百七十五條 備船者ハ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ニ對シテ發航ノ請求ヲ爲スコトヲ得
備船者カ前項ノ請求ヲ爲シタルトキハ運送賃ノ全額ノ外運送品ノ全部ヲ船積セサルニ因リテ生シタル費用ヲ支拂ヒ尙ホ船舶所有者ノ請求アルトキハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第五百七十六條 船積期間經過ノ後ハ備船者カ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ備船者ハ前條第二項ニ定メタル責任ヲ負フ

第五百七十七條 發航前ニ於テハ備船者ハ運送賃ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

往復航海ヲ爲スヘキ場合ニ於テ備船者カ其歸航ノ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ
商法 海商 運送 物品運送 規則
百三十七

運送貨ノ三分ノ二ヲ支拂フコトヲ要ス他港ヨリ船積港ニ航行スヘキ場合ニ於テハ備船者
カ其船積港ヲ發スル前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ亦同シ

運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタル後前二項ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ
ハ其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ備船者之ヲ負擔ス

備船者カ船積期間内ニ運送品ノ船積ヲ爲ササリシトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看
做ス

第五百七十八條 備船者カ前條ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ附隨ノ費
用及ヒ立替金ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得ス

前條第二項ノ場合ニ於テハ備船者ハ前項ニ掲ケタルモノノ外運送品ノ價格ニ應シ共同海
損、救援又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フコトヲ要ス

第五百七十九條 發航後ニ於テハ備船者ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フ外第五百八十五條第一項
ニ定メタル債務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲メニ生スヘキ損害ヲ賠償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スル
ニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第五百八十條 船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ他ノ備船
者及ヒ荷送人ト共同セスシテ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂

フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送貨ハ之ヲ控除ス

發航前ト雖モ備船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタルトキハ他ノ備船者及ヒ荷
送人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五百八十一條 個個ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指
圖ニ從ヒ遲滞ナク運送品ヲ船積スルコトヲ要ス

荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ
ハ荷送人ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送
貨ハ之ヲ控除ス

第五百八十二條 第五百八十條ノ規定ハ荷送人カ契約ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五百八十三條 備船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交付スル
コトヲ要ス

第五百八十四條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品
ヲ陸揚スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長ハ遲滞ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ
發スルコトヲ要ス

運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算ハセス
個個ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷受人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ遲滞ナク運送品ヲ陸揚スルコトヲ要ス

第五百八十五條 荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送契約又ハ船荷證券ノ趣旨ニ從ヒ運送賃、附隨ノ費用、立替金及ヒ運送品ノ價格ニ應シ共同海損、救援又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

船長ハ前項ニ定メタル金額ノ支拂フ引換ニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ要セス

第五百八十六條 荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキハ船長ハ之ヲ供託スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ船長ハ運送品ヲ供託スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ遲滞ナク備船者又ハ荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百八十七條 運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第五百八十八條 期間ヲ以テ運送賃ヲ定メタルトキハ其額ハ運送品ノ船積着手ノ日ヨリ其陸揚終了ノ日マテノ期間ニ依リテ之ヲ定ム但船舶カ不可抗力ニ因リ發航港若クハ航海ノ途中ニ於テ碇泊スヘキトキ又ハ航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ其期間ハ之ヲ算入セス第五百七十三條第二項又ハ第五百八十四條第二項ノ場合ニ於テ船積期間又ハ陸揚期間經過ノ後運送品ノ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル日數亦同シ

第五百八十九條 船舶所有者ハ第五百八十五條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ受クル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

船長カ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ船舶所有者ハ其運送品ノ上ニ權利ヲ行使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ第三者カ其占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百九十條 船舶所有者カ前條ニ定メタル權利ヲ行ハサルトキハ備船者又ハ荷送人ニ對スル請求權ヲ失フ但備船者又ハ荷送人ハ其受クタル利益ノ限度ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第五百九十一條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ爲シタルトキハ其契約ノ履行カ船長ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船舶所有者ノミ其第三者ニ對シテ其履行ノ責ニ任ス但第五百二十三條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第五百九十二條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 第五百六十六條第一項ニ掲ケタル事由

二 運送品カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト

第五百六十六條第一項ニ掲ケタル事由カ航海中ニ生シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第五百九十三條 航海又ハ運送カ法令ニ反スルニ至リタルトキ其他不可抗力ニ因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ各當事者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ事由カ發航後ニ生シタル場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第五百九十四條 第五百九十二條第一項第二號及ヒ前條ニ定メタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ備船者ハ船舶所有者ノ負擔ヲ重カラシメサル範圍内ニ於テ他ノ運送品ヲ船積スルコトヲ得

備船者カ前項ノ權利ヲ行ハント欲スルトキハ遲滞ナク運送品ヲ船積又ハ陸揚スルコトヲ要ス若シ其船積又ハ陸揚ヲ怠リタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第五百九十五條 第五百九十二條及ヒ第五百九十三條ノ規定ハ船舶ノ一部又ハ個個ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五百九十二條第一項第二號及ヒ第五百九十三條ニ定メタル事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ備船者又ハ荷送人ハ運送貨ノ全額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百九十六條 船舶所有者ハ左ノ場合ニ於テハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

一 船長カ第五百四十七條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ質入シタルトキ

二 船長カ第五百五十一條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ

三 船長カ第六百二十條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第五百九十七條 船舶所有者ノ備船者、荷送人又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第五百九十八條 第三百十二條、第三百二十條乃至第三百二十五條及ヒ第三百三十二條ノ規定ハ船舶所有者ニ之ヲ準用ス

第二款 船荷證券

第五百九十九條 船長ハ備船者又ハ荷送人ノ請求ニ因リ運送品ノ船積後遲滞ナク一通又ハ數通ノ船荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百條 船舶所有者ハ船長以外ノ者ニ船長ニ代ハリテ船荷證券ヲ交附スルコトヲ委任スルコトヲ得

第六百一條 船荷證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長又ハ之ニ代ハル者署名スルコトヲ要ス

一 船舶ノ名稱及ヒ國籍

二 船長カ船荷證券ヲ作ラサルトキハ船長ノ氏名

三 運送品ノ種類、重量若シハ容積、荷造ノ種類、個數及ヒ記號

四 備船者又ハ荷送人ノ氏名又ハ商號

五 荷受人ノ氏名若シハ商號又ハ船荷證券ノ所持人ニ運送品ヲ引渡スヘキコト

六 船積港

七 陸揚港但發航後備船者又ハ荷送人カ陸揚港ヲ指定スヘキトキハ其之ヲ指定スヘキ

港

八 運送貨

九 數通ノ船荷證券ヲ作リタルトキハ其員數

十 船荷證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第六百二條 備船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ請求ニ因リ船荷證券ノ謄本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第六百三條 陸揚港ニ於テハ船長ハ數通ノ船荷證券中ノ一通ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其引渡ヲ爲スコトヲ要ス

第六百四條 陸揚港外ニ於テハ船長ハ其作リタル總テノ船荷證券ノ返還ヲ受クルニ非ザレハ運送品ヲ引渡スコトヲ得ス

第六百五條 二人以上ノ船荷證券所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ船長ハ遲滞ナク運送品ヲ供託シ且請求ヲ爲シタル各所持人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス船長カ前條ノ規定ニ依リテ運送品ノ一部ヲ引渡シタル後他ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタル場合ニ於テ其殘部ニ付キ亦同シ

第六百六條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ其一人カ他ノ所持人ニ先チテ船長

商法 海商 運送 物品運送 船荷證券

ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人ノ船荷證券ハ其效力ヲ失フ
第六百七條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ船長カ未タ運送品ノ引渡ヲ爲ササルトキハ原所持人カ最モ先ニ發送シ又ハ引渡シタル證券ヲ所持スル者ハ他ノ所持人ニ先チテ其權利ヲ行フコトヲ得

第六百八條 第三百十八條、第三百十九條、第四百三十五條及ヒ第四百六十三條ノ規定ハ船荷證券ニ之ヲ準用ス

第二節 旅客運送

第六百九條 記名ノ乗船切符ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第六百十條 旅客ノ航海中ノ食料ハ船舶所有者ノ負擔トス

第六百十一條 旅客カ契約ニ依リ船中ニ携帶スルコトヲ得ル手荷物ニ付テハ船舶所有者ハ

特約アルニ非サレハ運送價ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百十二條 旅客カ乗船時期マテニ船舶ニ乗込マサルトキハ船長ハ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ旅客ハ運送價ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第六百十三條 發航前ニ於テハ旅客ハ運送價ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得發航後ニ於テハ旅客ハ運送價ノ全額ヲ支拂フニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十四條 旅客カ死亡、疾病其他一身ニ關スル不可抗力ニ因リテ航海ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ船舶所有者ハ運送價ノ四分ノ一ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ事由カ發航後ニ生シタルトキハ船舶所有者ハ運送ノ割合ニ應シテ運送價ヲ請求スルコトヲ得

第六百十五條 航海ノ途中ニ於テ船舶ヲ修繕スヘキトキハ船舶所有者ハ其修繕中旅客ニ相當ノ住居及ヒ食料ヲ供スルコトヲ要ス但旅客ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ他ノ船舶ヲ以テ上陸港マテ旅客ヲ運送スルコトヲ提供シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百十六條 旅客運送契約ハ第五百六十六條第一項ニ掲ケタル事由ニ因リテ終了ス若シ其事由カ航海中ニ生シタルトキハ旅客ハ運送ノ割合ニ應シテ運送價ヲ支拂フコトヲ要ス
第六百十七條 旅客カ死亡シタルトキハ船長ハ最モ其相續人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其船中ニ在ル手荷物ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十八條 第三百三十四條、第三百三十五條第一項、第三百三十六條、第五百七十條、第五百七十一條、第五百九十三條及ヒ第五百九十七條ノ規定ハ海上ノ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第五百七十二條及ヒ第五百九十六條ノ規定ハ旅客ノ手荷物ニ之ヲ準用ス

第六百十九條 旅客運送ヲ爲ス爲メ船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ船舶所有者ト備船者トノ關係ニ付テハ前節第一款ノ規定ヲ準用ス

第四章 海損

第六百二十條 船長カ船舶及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ船舶又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生シタル損害及ヒ費用ハ之ヲ共同海損トス

前項ノ規定ハ危險カ過失ニ因リテ生シタル場合ニ於テ利害關係人ノ過失者ニ對スル求償ヲ妨ケス

第六百二十一條 共同海損ハ之ニ因リテ保存スルコトヲ得タル船舶又ハ積荷ノ價格ト運送賃ノ半額及ヒ共同海損タル損害ノ額トノ割合ニ應シテ各利害關係人之ヲ分擔ス

第六百二十二條 共同海損ノ分擔額ニ付テハ船舶ノ價格ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トシ積荷ノ價格ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トス但積荷ニ付テハ其價格中ヨリ喪失ノ場合ニ於テ支出スルコトヲ要セサル費用及ヒ支拂フコトヲ要セサル運送賃ヲ控除スルコトヲ要ス

第六百二十三條 前二條ノ規定ニ依リ共同海損ヲ分擔スヘキ者ハ船舶ノ到達又ハ積荷ノ引渡ノ時ニ於テ現存スル價格ノ限度ニ於テノミ其實ニ任ス

第六百二十四條 船舶ニ備附シタル武器、船員ノ給料、船員及ヒ旅客ノ食料並ニ衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付キ其價額ヲ算入セス但此等ノ物ニ加ヘタル損害ハ他ノ利害關係人之ヲ分擔ス

第六百二十五條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ナクシテ船積シタル荷物又ハ屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル損害ハ利害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス

甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同シ但沿岸ノ小航海ニ在リテハ此限ニ在ラス前二項ニ掲ケタル積荷ノ利害關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百二十六條 共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ付テハ其滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セザリシ一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第三百二十二條ノ規定ハ共同海損ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百二十七條 船荷證券其地積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ニ加ヘタル損害ノ額ハ其記載シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム

積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價格ニ應シテ共同海損ヲ分擔ス

前二項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ホスヘキ事項ニ付キ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百二十八條 第六百二十一條ノ規定ニ依リテ利害關係人カ共同海損ヲ分擔シタル後船舶、其屬具若クハ積荷ノ全部又ハ一部カ其所有者ニ復シタルトキハ其所有者ハ償金中ヨリ救助ノ費用及ヒ一部滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返還スル義務ヲ負フ

第六百二十九條 船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ニ於テ雙方ノ過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ其衝突ニ因リテ生シタル損害ハ各船舶ノ所有者平分シテ之ヲ負擔ス

第六百三十條 共同海損又ハ船舶ノ衝突ニ因リテ生シタル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ共同海損ニ付テハ其計算終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六百三十一條 本章ノ規定ハ船舶カ不可抗力ニ因リテ發航港又ハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ス

ル爲メニ要スル費用ニ之ヲ準用ス

第五章 保險

第六百三十二條 海上保險契約ハ航海ニ關スル事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ填補ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第三編第十章第一節第一款ノ規定ハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外海上保險契約ニ之ヲ適用ス

第六百三十三條 保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第六百三十四條 保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補スル責ニ任ス但保險價格ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價格ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百三十五條 船舶ノ保險ニ付テハ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ以テ保險價額トス

第六百三十六條 積荷ノ保險ニ付テハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積並ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス

第六百三十七條 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額ト爲タルモノト推定ス

第六百三十八條 一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷物又ハ底荷ノ船積ニ着手シタル時ヲ以テ始マル

荷物又ハ底荷ノ船積ヲ爲シタル後船舶ヲ保險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任ハ契約成立ノ時ヲ以テ始マル

前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル但其陸揚カ不可抗力ニ因ラスシテ遅延シタルトキハ其終了スヘカリシ時ヲ以テ終ハル

第六百三十九條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百四十條 海上保險證券ニハ第三百八十六條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 船舶ノ國籍、名稱、種類及ヒ總噸數

二 船長ノ氏名

三 發航港、到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港

積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船積港及ヒ陸揚港ヲ記載スルコトヲ要ス

第六百四十一條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其義務ヲ免ル

保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

到達港ヲ變更シ其實行ニ著手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做ス

第六百四十二條 被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又ハ航路ヲ變更シ其他著シク危険ヲ變更若クハ増加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更又ハ増加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ホササリシトキ又ハ

保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラ
ス

第六百四十三條 保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影
響ヲ及ボサス

第六百四十四條 積荷ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變
更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸ス
ヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百四十五條 保險契約ヲ爲スニ當タリ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ニ於テ
保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ船積シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ
對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ保險者ハ其義務ヲ免ル

第六百四十六條 保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セス

- 一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者、被保險者若クハ保險
金額ヲ受取ルヘキ者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
- 二 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要

ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害

三 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益ヲ保險ニ付シタル場合ニ於
テ備船者、荷送人若クハ荷受人ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

四 水先案内料、入港料、燈臺料、檢疫料其他船舶又ハ積荷ニ付キ航海ノ爲メニ出タシ
タル通常ノ費用

第六百四十七條 共同海損ニ非サル損害又ハ費用ハ其計算ニ關スル費用ヲ算入セスシテ保
險價額ノ百分ノ三ヲ越エサルトキハ保險者ハ之ヲ填補スルコトヲ要セス

右ノ損害又ハ費用カ保險價額ノ百分ノ三ヲ越エタルトキハ保險者ハ其全額ヲ支拂フコト
ヲ要ス

前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セサル損害又ハ費用ノ割合ヲ定メタル
場合ニ之ヲ準用ス

前三項ニ定メタル割合ハ各航海ニ付キ之ヲ計算ス

第六百四十八條 保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ其積
荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割
合ヲ以テ保險價額ノ一部ヲ填補スルコトヲ要ス

第六百四十九條 航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其賣却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送賃其他ノ費用ヲ控除シ其殘額ト保險價額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テ買主カ代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス但其支拂ヲ爲シタルトキハ被保險者ノ買主ニ對スル權利ヲ取得ス

第六百五十條 被保險者ハ左ノ場合ニ於テハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

- 一 船舶カ沈没シタルトキ
 - 二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
 - 三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ
 - 四 船舶又ハ積荷カ補獲セラレタルトキ
 - 五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六個月間解放セラレサルトキ
- 第六百五十一條 前條第三號ノ場合ニ於テ船長カ遲滞ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得ス
- 第六百五十二條 船舶ノ存否カ六個月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサルモノトス

保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失セザリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス

第六百五十三條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三個月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ第六百五十條第一號、第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百五十四條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス

委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得

保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ應シテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百五十五條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス

被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第六百五十六條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當タリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

保險者ハ前項ノ通知ヲ受クルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス

保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百五十七條 被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

保險者ハ委付ノ原因ヲ調査スルニ必要ナル期間内ハ保險金額ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得

第六章 船舶債權者

第六百五十八條 左ニ掲ケタル債權ヲ有スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未タ受取ラサル運送賃ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一 船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費

二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費

三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅

四 水先案内料及ヒ挽船料

五 救援並ニ救助ノ費用及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損

六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權

七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權

八 船舶カ其賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其賣買又ハ製造並ニ機

裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ機裝、食料並ニ燃料ニ

關スル債權

九 第二號、第四號乃至第六號及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除ク外第五百二十三條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權

第六百五十九條 船舶債權者ノ先取特權ハ運送賃ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送賃ノ上ニノミ存在ス

第六百六十條 船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第六

百五十八條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ

同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク但第六百五十八條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セザリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ

先取特權カ數回ノ航海ニ付キ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ後ノ航海ニ付テ生シタルモノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノニ先ツ

第六百六十一條 船舶所有者カ其船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓受人ハ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一个月ヲ下ルコトヲ得ス

先取特權者カ前項ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲サザリシトハ其先取特權ハ消滅ス

第六百六十二條 船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第六百五十八條第八號ノ先取特權ハ船舶ノ發航ニ因リテ消滅ス

第六百六十三條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及フ

船舶ノ抵當權ニハ不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

第六百六十四條 船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得

第六百六十五條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第六百六十六條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

商法修正案理由書

爰ニ制定シタル商法ハ民法ト重複セル規定多ク間之ト相抵觸セルモノアリ其他穩當ヲ缺ク規定尠カラサルカ故ニ其修正ヲ行ハソカ爲メ明治二十五年法律第八號ヲ以テ民法ト共ニ其施行ヲ延期セラレタリ其後明治二十六年法律第九號ヲ以テ其第一編第六章、第十二章及ヒ第三編ヲ修正施行セリト雖モ專ラ時勢ノ急ニ應ヘソカ爲メ十分ノ修正ヲ施サザリシヲ以テ往往缺點アルヲ免レス爾來政府ハ法典調査會ヲ設ク周密慎重ナル調査ヲ遂ク以テ本案ヲ編製シ茲ニ之ヲ提出スルニ至ル本案ハ之ヲ舊法ニ比スレハ民法ト重複抵觸セル規定其他不穩當ナル規定ヲ除キ更ニ進ミテ舊法ノ缺典ヲ補ヒ大ニ改良ヲ加ヘタル點尠カラスト信ス

刑
法
草
案

刑法草案目錄

第一編 總則

第一章 法例

第二章 刑例

第一節 刑

第二節 刑期計算

第三節 刑ノ執行ノ猶豫及ヒ免除

第四節 時效

第五節 大赦、特赦、減刑及ヒ復權

第三章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第四章 未遂罪

第五章 併合罪

目次

一 二 全 六 七 九 十 十 十二 全
頁 頁 頁 頁 頁 頁 頁 頁 頁 頁

第六章	再犯	十五頁
第七章	共犯	全
第八章	酌量減輕	十六頁
第九章	加減例	全

第二編 罪名

第一章	皇室ニ對スル罪	十八頁
第二章	内亂ニ關スル罪	十九頁
第三章	外患ニ關スル罪	二十頁
第四章	國交ニ關スル罪	二十一頁
第五章	公權ニ關スル罪	二十二頁
第一節	公務ノ執行ヲ妨害スル罪	全
第二節	選舉ニ關スル罪	二十三頁

第三節	囚徒逃走ノ罪	二十四頁
第四節	罪人藏匿及ヒ罪證湮滅ノ罪	二十五頁
第六章	靜謐ヲ害スル罪	全
第一節	多衆聚合ノ罪	全
第二節	銃礮、彈藥ニ關スル罪	二十六頁
第三節	放火、失火ノ罪	全
第四節	溢水及ヒ水利ニ關スル罪	二十八頁
第五節	往來通信ヲ妨害スル罪	二十九頁
第六節	住所ヲ侵スル罪	三十頁
第七節	秘密ヲ侵スル罪	三十一頁

第七章	衛生ニ關スル罪	三十二頁
第一節	阿片煙ニ關スル罪	全
第二節	飲料水及ヒ飲食物ニ關スル罪	三十三頁
第三節	傳染病ノ豫防ニ關スル罪	三十四頁

目次

第四節 私ニ營業ヲ爲ス罪

四 三十五頁

第八章 信用ヲ害スル罪

全

第一節 通貨偽造ノ罪

全

第二節 文書偽造ノ罪

三十六頁

第三節 有價券偽造ノ罪

三十八頁

第四節 印章偽造ノ罪

三十九頁

第五節 度量衡偽造ノ罪

四十頁

第六節 偽證ノ罪

四十一頁

第七節 誣告ノ罪

全

第九章 風俗ヲ害スル罪

四十二頁

第一節 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

四十二頁

第二節 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

四十三頁

第三節 神佛及ヒ死屍ニ關スル罪

四十四頁

第十章 官吏、公吏及ヒ議員ノ職務ニ關スル罪

四十五頁

第十一章 生命身體ニ對スル罪

四十七頁

第一節 殺人ノ罪

全

第二節 傷害ノ罪

四十八頁

第三節 過失殺傷ノ罪

四十九頁

第四節 墮胎ノ罪

全

第五節 老幼者、疾病者ノ保護ヲ缺ク罪

五十頁

第十二章 自由ニ對スル罪

五十一頁

第一節 逮捕及ヒ監禁ノ罪

全

第二節 脅迫ノ罪

全

第三節 人ヲ略取スル罪

五十二頁

第十三章 名譽ニ對スル罪

五十三頁

第十四章 財産ニ對スル罪

全

第一節 賊盜ノ罪

五十四頁

第一款 竊盜ノ罪

全

目次

五

第二款	強盜ノ罪	全
第三款	恐喝盜ノ罪	五十五頁
第四款	詐欺盜ノ罪	五十六頁
第二節	占有物横領ノ罪	五十六頁
第三節	贓物ニ關スル罪	五十八頁
第四節	財物毀棄ノ罪	全

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 法律ニ於テ罰ス可キ行爲ヲ重罪及ヒ輕罪トス

第二條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタル場合ニ於テ裁判確定前ナルトキハ其最モ輕キモノヲ適用ス

刑ノ時効及ヒ刑ノ執行ニ關スル規定ハ新法ニ從フ

第三條 法律ハ内外國人ヲ問ハス帝國内ニ於テ犯シタル罪ニ適用ス

公海ニ於ケル帝國船舶内ノ犯罪及ヒ國際法上海賊ト認ム可キ犯罪ニ付テモ亦同シ

第四條 法律ハ治外法權ヲ有スル外國ニ於テ帝國人ノ犯シタル罪ニ適用ス

但帝國内ニノミ施行ス可キ法律ハ此限ニ在ラス

第五條 法律ハ内外國人帝國外ニ於テ帝國又ハ帝國人ニ對シ犯シタル重罪ニ付テモ亦之ヲ

適用ス

第六條 法律ハ帝國人帝國外ニ於テ放火、溢水、強姦其他生命、身體、自由及ヒ財産ニ對シ犯シタル重罪ニ付テモ亦之ヲ適用ス

帝國ノ官吏、公吏帝國外ニ於テ犯シタル職務ニ關スル罪ニ付テモ亦同シ

第七條 外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル事件ト雖モ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ一部又ハ全部ノ執行ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

第八條 此刑法ノ總則ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外他ノ法律ニ於テ刑ヲ定メタルモノニモ亦之ヲ適用ス

第二章 刑例

第一節 刑

第九條 死刑、懲役、禁錮、剝奪公權、監視及ヒ罰金ヲ重罪ノ刑トス拘留、科料ヲ輕罪ノ刑トス

沒收ヲ重罪、輕罪ノ附加刑トス

第十條 死刑ハ獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

第十一條 死刑ハ司法大臣ノ命令アルニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後別段命令アルニ非ザレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第十二條 死刑ハ大祀、令節、國祭ノ日ニ之ヲ執行セス

第十三條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一日以上十五年以下トス

懲役ハ懲役場ニ拘留シ定役ニ服ス但六月以下ノ懲役ハ拘留場ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得

第十四條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一日以上十五年以下トス

禁錮ハ禁錮場ニ拘留シ本人ノ請求アルニ非サレハ定役ニ服セス但六月以下ノ禁錮ハ拘留場ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得

第十五條 剝奪公權ハ左ノ效果ヲ生ス

- 一 法律ニ定メタル選舉ニ付キ選舉權、被選舉權ノ喪失
- 二 官職、公職ノ喪失及ヒ之ニ就クノ無能力
- 三 勳章、年金及ヒ位記ヲ有スルノ無能力
- 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ禁止

五 兵籍ニ入ルノ無能力

六 後見人、後見監督人、保佐人及ヒ親族會員タルノ無能力

第十六條 剝奪公權ハ無期及ヒ有期トシ有期剝奪公權ハ三年以上十五年以下トス

死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ト共ニ言渡ス可キ剝奪公權ハ當然無期トス

十年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ト共ニ言渡ス可キ剝奪公權ハ無期又ハ有期トシ十年未滿

ノ懲役又ハ禁錮ト共ニ言渡ス可キ剝奪公權ハ十年以下トス

有期ノ懲役又ハ禁錮ト共ニ剝奪公權ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其懲役又ハ禁錮ノ滿限若クハ

其執行ノ免除ニ至ルマテ當然公權ヲ剝奪セラレタルモノトス

第十七條 監視ハ左ノ效果ヲ生ス

一 犯罪ノ地及ヒ被害者所在地ノ警察官廳ハ被監視人ニ對シ其管轄地ノ全部又ハ一部ニ

立入ルヲ禁スルヲ得ルコト

二 警察官ハ必要ト思料スル場合ニ於テハ何時ニテモ被監視人ノ家宅ニ就キ搜索及ヒ物

件差押ヲ爲スヲ得ルコト

第十八條 監視ノ期間ハ一年以上五年以下トス

第十九條 死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者特赦又ハ時効ニ因リ其執行ノ

免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ有期ノ懲役若クハ禁錮ニ減輕セラレタルトキハ當然五年間監視
ニ付セラレタルモノトス

懲役又ハ禁錮ト共ニ監視ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタルトキハ出獄中當然監視
ニ付セラレタルモノトス

第二十條 罰金ハ一圓以上トス

第二十一條 罰金ヲ納完スルコト能ハサルトキハ一日以上二年以下ノ期間獄舎ニ留置ス但
服役セシムルコトヲ得

裁判所ハ罰金ノ言渡ト共ニ其不完納ノ場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ
罰金ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納メタルトキハ言渡サレタル罰金ノ額ト留置日數トノ
割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ留置ス

留置期間内罰金ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

第二十二條 拘留ハ一日以上一月以下トシ拘留場ニ拘留ス但本人ノ請求アルトキハ定役ニ
服セシムルコトヲ得

第二十三條 科料ハ十錢以上三十圓以下トス

第二十四條 科料ヲ納完スルコト能ハサルトキハ一日以上一月以下ノ期間拘留場ニ留置ス

但服役セシムルコトヲ得

裁判所ハ科料ノ言渡ト共ニ其不完納ノ場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

第二十一條 第三項第四項ノ規定ハ科料ニ付テモ亦之ヲ準用ス

第二十五條 左ニ記載シタル物件ハ之ヲ沒收スルコトヲ得但犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有者
ナキトキニ限ル

- 一 犯罪ヲ組成シタル物件
- 二 犯罪ノ用ニ供シタル物件
- 三 犯罪ニ因リ得タル物件

第二十六條 輕罪ノ刑ニ付テハ刑段ノ規定アルニ非サレハ沒收スルコトヲ得ス

第二節 刑期計算

第二十七條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ
以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス

放免ハ刑期終了ノ翌日午前ニ於テ之ヲ行フ

第二十八條 刑期ハ裁判確定翌日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ懲役、禁錮又ハ拘留ノ刑期ニ算入セス
有期ノ懲役又ハ禁錮ト共ニ言渡サレタル剝奪公權及ヒ監視ノ期間ハ其懲役又ハ禁錮ノ滿
限若クハ其執行ノ免除アリタル翌日ヨリ起算ス

死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ノ執行ノ免除ヲ得タル者ニ對スル監視ノ期間ハ其免除ア
リタル翌日ヨリ起算シ減刑ニ因リ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮
ニ減輕セラレタル者ノ監視ノ期間ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

第二十九條 未決勾留ノ日數ハ左ノ區別ニ從ヒ本刑ニ算入ス但本刑ノ一日又ハ一圓ニ當ラ
サル勾留日數ハ之ヲ除去ス

- 一 懲役一日ニ付キ勾留六日
- 二 禁錮、拘留一日ニ付キ勾留三日
- 三 罰金、科料一圓ニ付キ勾留二日但一圓以下ト雖モ亦同シ

第三節 刑ノ執行ノ猶豫及ヒ免除

第三十條 初犯ニシテ懲役又ハ禁錮六月以下ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ情狀ニ因リ裁判
言渡ノ日ヨリ時効ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十一條 初犯ニシテ罰金ノ言渡ヲ受ケ納完スルコト能ハサル爲メ留置ス可キ者ニ付テ

刑法 總則 刑例 刑期計算 刑ノ執行ノ猶豫及ヒ免除

ハ其日數ノ如何ニ拘ハラズ前條ノ規定ニ從ヒ時効ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得但
懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キ者ニ付テハ此限ニ在ラズ

第三十二條 懲役又ハ禁錮六月以上ニ處セラレタル者ト雖モ他人ノ生命、身體又ハ自由ニ
直接ナル損害ヲ生セサル事件又ハ財産ニ對スル犯罪ニシテ其損害ノ全部ヲ賠償シタル事
件ニ付キ自首減輕セラレタルトキハ第三十條ノ規定ニ從ヒ其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十三條 刑ノ執行猶豫ハ刑ノ執行前檢事ノ申立ニ因リ裁判所之ヲ決定ス此場合ニ於テ
ハ其決定アルマテ刑ノ執行ヲ停止ス

第三十四條 剝奪公權ヲ科シ又ハ監視ニ付セラレタル者ニ付テハ第三十條乃至第三十二條
ノ規定ヲ適用セス

第三十五條 刑ノ執行猶豫ノ期間内更ニ罰金以外ノ刑ニ該ル可キ重罪ヲ犯ササルトキハ其
猶豫セラレタル刑ノ執行ヲ免除ス

第三十六條 刑ノ執行猶豫ノ期間内更ニ罰金以外ノ刑ニ該ル可キ重罪ヲ犯シタルトキハ當
然後刑ト共ニ前刑ヲ執行ス

第三十七條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者更ニ重罪ヲ犯スノ虞ナシトスルトキハ有期刑
ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十五年ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出

獄ヲ許スコトヲ得

第三十八條 假出獄中更ニ罰金以外ノ刑ニ該ル可キ重罪ヲ犯ササルキトハ懲役又ハ禁錮ノ
執行ヲ免除ス但罰金以外ノ刑ニ該ル可キ重罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ出獄中ノ日數ハ刑
期ニ算入セス

第三十九條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政ノ處分ヲ以テ其執行ヲ免
除スルコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ納完スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者及ヒ懲治ノ處分ヲ受ケタ
ル者ニ付テモ又同シ

第四節 時効

第四十條 時効ハ法律ニ定メタル期間内刑ノ執行ヲ通レタルニ因リ其執行ノ免除ヲ得ルモ
ノトス

第四十一條 時効ノ期間ハ左ノ如シ

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未満ハ五年

四 罰金ハ三年

五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第四十二條 剝奪公權及ヒ監視ハ時効ヲ得ス

第四十三條 時効ノ期間ハ刑ノ執行ニ付テノ拘禁ヲ通シタル日ヨリ起算ス若シ拘禁ヲ受ケ

サルトキハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

罰金科料及ヒ沒收ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

第四十四條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ又ハ逮捕ニ付テノ司法大臣ノ

發シタル命令ニ因リ之ヲ中斷ス

第五節 大赦、特赦、減刑及ヒ復權

第四十五條 大赦ハ裁判言渡ノ效力ヲ全減ス但既ニ徵收シタル罰金、科料及ヒ沒收シタル

物件ニ付テハ其返還ヲ求ムルコトヲ得ス

第四十六條 特赦ハ刑ノ執行ヲ免除シ減刑ハ其執行ヲ減輕ス

第四十七條 復權ハ將來ノ公權ヲ復シ當然監視ヲ免除ス

第三章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第四十八條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

第四十九條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムヲ得サルニ出

テタル行爲ハ之ヲ罰セス但不正ノ行爲ニ因リ自ラ侵害ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

若シ必要ナル程度ヲ超ヘタルトキハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第五十條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ

已ムヲ得サルニ出テタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕シ若クハ之ヲ罰セス但職務上特別

ノ義務アル者ハ此限ニ在ラス

第五十一條 罪ヲ犯ス意ナキノ行爲ハ之ヲ罰セス但法令ニ於テ不注意ノ行爲ヲ罰スルハ此

限ニ在ラス

法令ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯スノ意ナシト爲スコトヲ得ス

第五十二條 精神病患者又ハ意識喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス但精神病ニ罹ル者ハ情狀ニ因リ

監置ノ處分ヲ命スルコトヲ得

第五十三條 十歳ニ滿サル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス但滿八歳以上ノ者ノ行爲ニシテ重罪ニ該

ルトキハ情狀ニ因リ滿十五歳ニ過キサル時間懲治ノ處分ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 十歳以上十五歳ニ滿サル者ノ行爲ハ是非ノ辨別ナキトキハ之ヲ罰セス但其行

爲重罪ニ該ルトキハ情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間懲治ノ處分ヲ命スルコトヲ得

刑法 總則 大赦、特赦、減刑及ヒ復權 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

若シ是非ノ辨別アリテ犯シタルトキハ其刑ヲ減輕ス

第五十五條 十五歳以上二十歳ニ滿サル者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第五十五條 瘡痍者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕シ若クハ之ヲ罰セス但之ヲ罰セサル場合ニ於テハ情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間懲治ノ處分ヲ命スルコトヲ得

第五十七條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前ニ於テ自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

被害者ノ告訴ヲ待テ訴追ス可キ罪ニ付テハ被害者ニ首服スルモ亦自首ノ效アリトス

第四章 未遂罪

第五十八條 犯罪ノ實行ニ著手シ意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕ス

未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第五十九條 犯罪ノ實行ニ著手シ自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ現ニ生シタル結果ニ從テ之ヲ罰ス

第五章 併合罪

第六十條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ單

ニ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第六十一條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但剝奪公權及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキモ亦他ノ刑ヲ科セス但剝奪公權、罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第六十二條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ科ス可キ刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ科ス可キ刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

併合罪中重キ罪ノ刑ニ短期ナシト雖モ他ノ罪ノ刑ニ短期アルトキハ其短期以下ニ下スコトヲ得ス若シ二個以上ノ短期アルトキハ其最モ重キ短期以下ニ下スコトヲ得ス

懲役ト禁錮トハ懲役ヲ以テ重シトス但禁錮ノ刑期懲役ノ刑期ヨリ長キトキハ懲役ノ刑期ヲ二倍シテ禁錮ノ刑期ニ比較シ期限ノ長キモノヲ以テ重シトス

第六十三條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第六十一條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ科ス可キ罰金合算額以下ニ於テ處斷ス

第六十四條 剝奪公權又ハ監視ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス若シ二個以上ノ剝奪公權又ハ監視

アルトキハ其期限ノ最モ長キモノヲ科ス

第六十五條 沒收ハ之ヲ併科ス

第六十六條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ裁判ヲ經サル罪ニ付キ更ニ處斷シ前判ノ刑ト後判ノ刑トヲ併セラテ執行ス

前項ノ場合ニ於テ死刑ヲ執行ス可キトキハ剝奪公權及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ剝奪公權、罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ科ス可キ刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス但第六十二條第三項ノ規定ハ有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ニ付テモ亦之ヲ準用ス

剝奪公權及ヒ監視ハ其期限ノ最モ長キモノヲ執行ス

第六十七條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判確定シタルトキハ前條ノ例ニ依リ之ヲ執行ス

第六十八條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ赦令ノ定ムル所ニ從ヒ裁判所ノ命令ヲ以テ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第六十九條 輕罪ノ刑ハ之ヲ併科ス但第六十一條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第七十條 一個ノ行爲又ハ牽連シタル行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レタルモノハ其最モ重キ

刑ヲ以テ處斷ス

第六十二條第三項及ヒ第六十五條ノ規定ハ本條ノ場合ニ於テモ亦之ヲ適用ス

第六章 再犯

第七十一條 或種類ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ十年内ニ更ニ同種類ノ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ再犯トス

死刑ノ執行ノ免除アリタル者ニ付テモ亦同シ

第七十二條 先ニ併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中再犯ニ因リ刑ヲ加重ス可キ罪アルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯ノ場合ニ於テ其刑ヲ加重ス

第七十三條 再犯ニ付キ刑ヲ加重ス可キ罪ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第七十四條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ法律ニ定メタル刑ノ二倍トス但剝奪公權及ヒ監視ハ加重スルノ限ニ在ラス

第七十五條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ裁判所ノ命令ニ依リ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

第七十六條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

第七章 共犯

刑法 總則 再犯 共犯

第七十七條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

第七十八條 人ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシメタル者ハ正犯ニ准ス

第七十九條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

第八十條 教唆者ヲ教唆シタル者ハ正犯ニ准シ教唆者ヲ幫助シ又ハ從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ准ス

從犯ニ准ス

第八十一條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第八十二條 輕罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ別段ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

第八十三條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ罪ヲ共ニ犯シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍

ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第八章 酌量減輕

第八十四條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第八十五條 法律ニ於テ刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キモノト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

得

第九章 加減例

第八十六條 酌量減輕ヲ除ク外刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ從テ之ヲ減輕ス

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處ス

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮若クハ拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ三分ノ二以下ニ處ス但各本條ニ於テ特ニ短期ヲ定メタル場合ニ於テハ其三分ノ一ヲ減シタルモノヲ以テ短期トス

四 罰金、科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ三分ノ二以下ニ處ス

第八十七條 酌量減輕ヲ除ク外刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルト

キハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第八十八條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ左ノ例ニ依ル

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ニ短期アルモノヲ減輕ス可キトキハ其短期以下ニ處ス

第八十九條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

刑法 總則 酌量減輕 加減例

- 一 再犯加重
 - 二 法律上ノ減輕
 - 三 併合罪ノ加重
 - 四 酌量減輕
- 第九十條 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ加重シテ三十年ヲ超ユルコトヲ得ス剝奪公權及ヒ監視ハ加重減輕セズ

第二編 罪名

第一章 皇室ニ對スル罪

第九十一條 天皇、三后、皇太子、皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第九十二條 天皇、三后、皇太子、皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

神皇又ハ前代ノ天皇ニ對シ不敬ノ行爲アル者亦同シ

第九十三條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲

役ニ處ス

第九十四條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アル者ハ四年以下ノ懲役ニ處ス

前代ノ皇族ニ對シ不敬ノ行爲アル者亦同シ

第九十五條 本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ハ監視ニ付ス

第二章 内亂ニ關スル罪

第九十六條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸

般ノ職務ニ從事シタル者ハ十年以下ノ禁錮ニ處ス

三 附和隨行其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九十七條 暴動ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十八條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ暴動又ハ其豫備、陰謀ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十九條 本章ノ罪ヲ犯シ死刑又ハ無期若クハ一年以上ノ禁錮ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科ス

第一百條 暴動ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル者ハ其刑ヲ免ス

第三章 外患ニ關スル罪

第一百一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第一百二條 帝國ニ屬シ又ハ其占用スル城塞、陣營、軍隊、港灣、艦船其他軍用ノ土地、建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第一百三條 帝國ニ屬シ又ハ其占用スル城塞、陣營、艦船其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供スル物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第一百四條 敵國ヲ利スル爲メ帝國ニ屬シ又ハ其占用スル城塞、陣營、港灣、艦船、兵器、彈藥、流車、電車、鐵道、電線其他軍用ノ土地、建造物ヲ毀壞若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラ

タル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第一百五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

シメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

軍事上又ハ政事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

戰時ニ非スト雖モ前項ノ機密ヲ外國ニ漏泄シタル者ハ有期懲役ニ處ス

第一百六條 前數條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ有期懲役ニ處ス

第一百七條 第一百一條乃至第一百六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百八條 第一百一條乃至第一百六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百九條 本章ノ罪ヲ犯シ死刑又ハ無期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付ス

第一百十條 本章ノ規定ハ外國人ニ對シテハ帝國內ニ在留シテ犯シタル場合ニ限り之ヲ適用ス

第一百十一條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第四章 國交ニ關スル罪

刑法 罪名 外患ニ關スル罪 國交ニ關スル罪

第一百十二條 帝國ニ滞在スル締盟國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

其行爲侮辱ニ係ルモノハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第一百十三條 帝國ニ派遣セラレタル締盟國ノ使節ニ對シ侮辱ノ行爲アル者ハ一年以上ノ懲役ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第一百十四條 締盟國ニ對シ侮辱ヲ加フルノ目的ヲ以テ其國國旗其他ノ國章ヲ破毀、汚損又ハ除去シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第一百十五條 締盟國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲スノ目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免ス

第一百十六條 外國交戦ノ際局外中立ノ命令ニ違背シタル者ハ一年以上ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但帝國人ニ付テハ外國ニ於テ犯シタルトキ亦同シ

第五章 公權ニ對スル罪

第一節 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第一百十七條 官吏、公吏又ハ議員ノ職務ノ執行ヲ妨害スル爲メ又ハ此等ノ者ヲシテ或ル處

分ヲ爲サシムル爲メ暴行、脅迫ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役ニ處ス

官署、公署又ハ議會ニ對シ暴行、脅迫ヲ爲シタル者亦同シ

第一百十八條 官吏、公吏又ハ議員ヲシテ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第一百十九條 官吏、公吏又ハ議員ノ職務ヲ執行スルニ當リ其面前ニ於テ侮辱ヲ爲シ又ハ其面前ニ非スト雖モ其職務ニ對シ文書、圖書又ハ偶像ヲ公示シ若クハ公然ノ雜劇、歌曲又ハ演說ヲ以テ侮辱シタル者ハ一年以上ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

官署、公署又ハ議會ニ對シ文書、圖書又ハ偶像ヲ公示シ若クハ公然ノ雜劇、歌曲又ハ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

第一百二十條 官吏、公吏ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ毀損又ハ汚損シテ無効タラシメタル者ハ一年以上ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二節 選舉ニ關スル罪

第一百二十一條 議員又ハ吏員ノ選舉ノ際投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ投票ヲ得サラシムル目的ヲ以テ暴行、脅迫又ハ詐偽ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十二條 前條ノ目的ヲ以テ金錢、物品其他財産上ノ利益ヲ授與シ又ハ授與スル約束ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

其授與ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル約束ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十三條 本節ノ罪ヲ犯シ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科ス

第三節 囚徒逃走ノ罪

第二百二十四條 既決、未決ノ囚徒逃走シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

若シ獄舎又ハ械具ヲ毀壞シ又ハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行、脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器又ハ器具ヲ給與シ其他逃走ノ幫助ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十七條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四節 罪人藏匿及ヒ罪證湮滅ノ罪

第二百二十九條 逃走ノ囚徒又ハ罰金ヲ除ク外重罪ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル者ヲ藏匿シ若クハ隠避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十一條 本節ノ罪ハ被告人ノ親族ニシテ被告人ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

第六章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 多衆聚合ノ罪

第二百三十二條 何等ノ目的ヲ問ハス之ヲ達スル爲メ多衆聚合シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス
- 三 附和隨行シタル者ハ五十圓以上ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ目的ヲ達スル爲メ多衆聚合シ官吏又ハ公吏ノ説諭ヲ受

刑法 罪名 囚徒逃走ノ罪 多衆聚合ノ罪 罪人藏匿及ヒ罪證湮滅ノ罪 靜謐ヲ害スル罪

クルト雖モ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十四條 本節ノ罪ヲ犯シ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科スルコトヲ得

第二節 銃砲、彈藥ニ關スル罪

第三百三十五條 允許ヲ得スシテ銃砲、彈藥ヲ製造、輸入シ又ハ販賣スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三百三十六條 前條ノ物品ヲ私ニ所持又ハ所有シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三節 放火、失火ノ罪

第三百三十七條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、瀛車、電車、船舶又ハ鐵坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第三百三十八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、瀛車、電車、船舶又ハ鐵坑ヲ燒燬シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
自己ノ所有ニ係ル前項ノ物ヲ燒燬シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十九條 火ヲ放テ山林田野ノ竹木、穀麥又ハ露積シタル柴草、竹木其他ノ物ヲ燒燬シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキト雖モ放火ノ爲メ公共ノ危難ヲ生ス可キ虞アリタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス若シ他人ノ物ニ延燒シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第三百四十條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三百四十一條 第三百三十八條第三百三十九條ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルトキト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ設定シ又ハ貸與シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ刑ニ同シ

第三百四十二條 火災ノ際鎮火用ノ物件ヲ隱匿又ハ毀壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第三百四十三條 第三百三十七條乃至第三百三十九條第三百四十一條及ヒ第三百四十二條ノ罪ヲ犯シ死刑又ハ無期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科スルコトヲ得一年以上ノ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

第三百四十四條 過失ニ因リ第三百三十七條乃至第三百三十九條及ヒ第三百四十一條ニ記載シタル

刑法 罪名 銃砲、彈藥ニ關スル罪 放火、失火ノ罪

物ヲ燒燬シタル者五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十五條 火藥、蒸氣罐其他激發ス可キ物品ヲ破壊セシメテ第三百三十七條乃至第三百三十九條及ヒ第四百一十一條ニ記載シタル物ヲ毀壞シタル者ハ放火、失火ノ罪ニ同シ

第四節 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第四百十六條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、瀛車、電車又

ハ鑛坑ニ損害ヲ生セシメタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第四百十七條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、瀛車、電車又ハ鑛坑ニ損害ヲ生セシメタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第四百十八條 溢水セシメテ前二條ニ記載シタル以外ノ物ニ損害ヲ生セシメタル者ハ十年

以下ノ懲役ニ處ス

第四百十九條 第四百十六條第四百十七條ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルトキト雖モ差

押ヲ受ケ、物權ヲ設定シ又ハ貸與シ若クハ保險ニ付シタルモノニ溢水セシメタルトキハ

他人ノ物ニ溢水セシメタル者ノ刑ニ同シ

第四百十條 水害ノ際防水用ノ物件ヲ隱匿又ハ毀壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害

シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百一十一條 第四百十六條乃至第四百十條ノ罪ヲ犯シ死刑又ハ無期懲役ニ處ス可キ者ニ

ハ剝奪公權ヲ科スルコトヲ得一年以上ノ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

第四百一十二條 過失ニ因リ第四百十六條乃至第四百十九條ニ記載シタル物ニ溢水セシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百一十三條 堤防ヲ決潰シ水開ヲ破壊シ其他水利ノ妨害トナル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 往來通信ヲ妨害スル罪

第四百一十四條 公共ノ用ニ供スル陸路又ハ水路ヲ損壞シ又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百一十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百一十六條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ瀛車又ハ電車往來ノ危険ヲ生セシメタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ船舶往來ノ危険ヲ生セシメタル者亦同シ

第五十七條 汽車又ハ電車ヲ顛覆シ又ハ破壊シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
船舶ヲ覆没シ又ハ破壊シタル者亦同シ

第五十八條 第五十六條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆破壊又ハ船舶ノ覆没、破
壞ヲ致シタル者亦前條ノ刑ニ同シ

第五十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第六十條 第五十四條第五十六條及ヒ第五十七條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六十一條 第五十六條第五十七條ニ掲ケタル行爲過失ニ出タルトキハ三百圓以下
ノ罰金ニ處ス

其業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ
處ス

第六十二條 郵便、電信、電話ノ用ニ供スル物件ヲ毀損シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ其交通ノ
妨害ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六節 住所ヲ侵ス罪

第六十三條 故ナク人ノ住居シ又ハ看守シタル邸宅、建造物又ハ船舶内ニ侵入シ又ハ請
求ヲ受ケテ退去セサル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

左ニ記載シタル情狀アルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

一 夜間ナルトキ

二 門戸、牆壁ヲ踰越、損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キタルトキ

三 兇器ヲ携帯シタルトキ

四 暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキ

五 二人以上ナルトキ

第六十四條 竊盜又ハ強盜ヲ爲スノ目的ヲ以テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲役
ニ處ス

第六十五條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所又ハ皇陵内ニ侵入シタル者ハ五年以下ノ懲
役ニ處ス

第六十六條 本節未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六十七條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ハ監視ニ付スルコトヲ得

第七節 秘密ヲ侵ス罪

第六十八條 故ナク人ノ信書其他秘密ノ書類ヲ開披シ又ハ隱匿シタル者ハ六月以下ノ禁
錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

刑法 罪名 住所ヲ侵ス罪 秘密ヲ侵ス罪

第六十九條 醫師、產婆、藥劑師、辯護士、公證人、神職、僧侶其職業ニ於テ委託ヲ受ケタルコトニ因リ知り得タル人ノ秘密ヲ漏告シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮若クハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但官署ニ對スル陳述ハ此限ニ在ラス

第七十條 本節ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第七章 衛生ニ關スル罪

第一節 阿片煙ニ關スル罪

第七十一條 阿片煙ヲ輸入シ製造シ又ハ販賣スル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第七十二條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入シ製造シ又ハ販賣スル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

處ス

第七十三條 稅關官吏阿片煙又ハ其器具ノ輸入ヲ許シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第七十四條 阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

處ス

第七十五條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第七十六條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所有シ若クハ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

役ニ處ス

第七十七條 本節ノ罪ヲ犯シ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ハ監視ニ付ス

第七十八條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ再犯例ヲ適用ス

第二節 飲料水及ヒ飲食物ニ關スル罪

第七十九條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第八十一條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第八十二條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ混入シタル者ハ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第八十三條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞シ又ハ壅塞シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス因テ溢水セシメタル者ハ溢水ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第八十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ飲食物ニ混和シテ販賣スル者ハ三月以下ノ懲役又

ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十五條 第百七十九條第百八十條第百八十一條第百八十四條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病ノ豫防ニ關スル罪

第百八十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル一般ノ規則ニ違背シテ艦船ヨリ上陸シ又ハ陸地若クハ他ノ艦船ト交通シ又ハ物件ノ陸揚ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

艦船ノ長又ハ其職務ヲ行フ者自ラ前項ノ罪ヲ犯シ又ハ人ヲシテ之ヲ犯サシメ若クハ人ノ之ヲ犯スコトヲ知リテ制セサル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十七條 艦船ノ長又ハ其職務ヲ行フ者傳染病豫防ノ爲メ設ケタル一般ノ規則ニ違背シテ艦船ヲ進航又ハ碇泊セシメタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十八條 前二條ノ外傳染病豫防ノ爲メ設ケタル一般ノ規則ニ違背シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條 獸類ノ傳染病豫防ノ爲メ設ケタル一般ノ規則ニ違背シタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十條 傳染病患ノ診察又ハ其病毒ノ検査ヲ命セラレタル醫師故ナク之ヲ肯セサルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病ノ診察又ハ其病毒ノ検査ヲ命セラレタル醫師故ナク之ヲ肯セサルトキ亦同シ

第四節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第百九十一條 允許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百九十二條 允許ヲ得スシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八章 信用ヲ害スル罪

第一節 通貨偽造ノ罪

第百九十三條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ兌換券ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百九十四條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第百九十五條 偽造、變造ノ貨幣、紙幣、兌換券又ハ外國ノ金銀貨ヲ輸入シタル者ハ偽造、變造ノ刑ニ同シ

刑法

罪名 傳染病ノ豫防ニ關スル罪 私ニ醫業ヲ爲ス罪 信用ヲ害スル罪

第九十六條 偽造、變造ノ貨幣、紙幣、兌換券又ハ外國ノ金銀貨ヲ行使スル目的ヲ以テ之ヲ取得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處シ之ヲ行使シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十七條 前四條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九十八條 貨幣、紙幣、兌換券又ハ外國ノ金銀貨ヲ取得シタル後偽造又ハ變造ナルコトヲ知り之ヲ行使シタル者ハ其價額三倍以下ノ罰金ニ處ス但一圓以下ニ下スコトヲ得ス

第九十九條 第一百零三條第一百零四條ニ記載シタル偽造、變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ其器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百條 本節ニ記載シタル罪ヲ犯シ無期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ一年以上ノ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付ス一年未滿ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

第二節 文書偽造ノ罪

第一百一條 行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シ又ハ御璽、國璽若クハ御名ヲ不正ニ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ増減、變換

シタル者亦同シ

第一百零二條 行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル官印、公印又ハ官吏公吏ノ印章、署名ヲ使用シ又ハ官印、公印若クハ官吏、公吏ノ印章、署名ヲ不正ニ使用シテ官文書又ハ公文書ヲ偽造シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ官印、公印ヲ押捺シ又ハ官吏、公吏ノ捺印、署名シタル官文書、公文書ヲ増減、變換シタル者亦同シ

前二項ノ外行使ノ目的ヲ以テ官吏、公吏ノ作ル可キ官文書、公文書ヲ偽造シ又ハ官文書、公文書ヲ増減、變換シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百零三條 官吏、公吏其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ詐僞ノ文書ヲ作り又ハ不正ニ文書ヲ増減、變換シタル者ハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第一百零四條 行使ノ目的ヲ以テ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シ又ハ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シテ權利又ハ義務ニ關スル文書ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル文書ニシテ權利又ハ義務ニ關スルモノヲ増減、變換シタル者亦同シ

第二百五條 官吏、公吏ヲ欺キ戶籍簿、登記簿其他權利又ハ義務ニ關スル公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百六條 醫師、官署又ハ公署ニ提出ス可キ診斷書若クハ死亡書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七條 第二百一條乃至第二百六條ニ載シタル文書ヲ行使シタル者ハ其文書ヲ作り又ハ増減、變換シタル者若クハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百八條 本節ノ罪ヲ犯シ無期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科スルコトヲ得一年以上ノ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

第三節 有價券偽造ノ罪

第二百九條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、會社ノ株券、手形、切手其他裏書ヲ以テ賣買シ又ハ金額ト交換ス可キ證券ヲ偽造シ又ハ増減、變換シ若クハ詐僞ノ裏書ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ證書、株券、手形、切手又ハ證券ヲ行使シタル者亦同シ

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十條 前條ノ罪ヲ犯シ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付ス

第四節 印章偽造ノ罪

第二百十一條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタルモノハ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

第二百十二條 行使ノ目的ヲ以テ官印、公印又ハ官吏、公吏ノ印章、署名ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

官印、公印又ハ官吏、公吏ノ印章、署名ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

第二百十三條 行使ノ目的ヲ以テ官署、公署ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

官署、公署ノ記號ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

第二百十四條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章、署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章、署名ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

第二百十五條 行使ノ目的ヲ以テ官ヨリ發行スル各種ノ印紙、手形用紙、郵便切手、封皮、葉書、帶紙又ハ郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手、封皮、葉書、帶紙ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ニ記載シタル各種ノ印紙、手形用紙、郵便切手、封皮、葉書、帶紙ヲ行使シタル者亦同シ

第二百十六條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十七條 本節ノ罪ヲ犯シ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

第五節 度量衡偽造ノ罪

第二百十八條 定規ヲ増減シタル度量衡ヲ製造シ又ハ販賣スル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス營業ノ用ニ供スル目的ヲ以テ定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十九條 允許ヲ得スシテ度量衡ヲ製造シ修覆シ又ハ販賣スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

檢定ヲ受ケサル度量衡ヲ販賣スル者亦同シ

營業ノ用ニ供スル目的ヲ以テ檢定ヲ受ケサル度量衡ヲ所持シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六節 偽證ノ罪

第二百二十條 司法裁判所、行政裁判所又ハ其他ノ裁判所ニ於テ宣誓シテ證人トナリタル者虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

刑事ノ被告人偽證ノ爲メ死刑ニ處セラレタルトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前自白シタルトキハ其刑ヲ減免スルコトヲ得

第二百二十二條 宣誓シテ鑑定人又ハ通事トナリタル者虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ依ル

第二百二十三條 本節ノ罪ヲ犯シ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科スルコトヲ得

第七節 誣告ノ罪

第二百二十四條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ不實ノ告訴、告發

刑法 罪名 度量衡偽造ノ罪 偽證ノ罪 誣告ノ罪

又ハ申告ヲ爲シタル者ハ第二百二十條第二百二十三條ノ例ニ依ル

第二百二十五條 誣告ヲ爲スト雖モ誣告シタル事件ノ裁判確定前誣告者自白シタルトキハ其刑ヲ減免スルコトヲ得

行政官廳ニ於テ懲戒處分ヲ爲ス可キ事件ニ付キ其處分前自白シタル者亦同シ

第九章 風俗ヲ害スル罪

第一節 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第二百二十六條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第二百二十七條 猥褻ノ圖書其他ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣スル者ハ亦前條ノ刑ニ同シ

本條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ沒收例ヲ適用ス

第二百二十八條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十九條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者亦同シ

婦女ノ精神病意識喪失又ハ抗拒不能ニ乘シテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

第二百三十條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百三十一條 第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百三十二條 強姦ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百三十三條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタルモノ亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナシ

第二百三十五條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十六條 第二百二十八條第二百二十九條及ヒ第二百三十二條ノ罪ヲ犯シ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科ス

第二節 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第二百三十七條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰

金ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物品ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラズ

刑法 罪名ヲ風俗ヲ害スル罪 猥褻、姦淫、及重婚ノ罪 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪 四十三

第二百三十八條 常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

博戯場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ再犯例ヲ適用ス

第二百三十九條 允許ヲ得スシテ富籤ヲ發賣シタルモノハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ

罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ再犯例ヲ適用ス

第二百四十條 允許ヲ得スシテ發賣シタル富籤ヲ購買シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十一條 本節ノ罪ヲ犯シ一年以上ノ懲役ニ處スヘキ者ハ監視ヲ付ス

第三節 神佛及ヒ死屍ニ關スル罪

第二百四十二條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アル者ハ六月以下ノ懲

役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教又ハ禮拜ヲ妨害シタルモノハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十三條 死體又ハ遺骨ヲ毀損シ若シクハ遺棄シタルモノハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十四條 墳墓ヲ發掘シ又ハ毀損シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

因テ死體又ハ遺骨ヲ露出、遺棄若クハ毀損シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十五條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四十六條 允許ヲ得スシテ改葬ヲ爲シタルモノハ科料ニ處ス

第十章 官吏、公吏及ヒ議員ノ職務ニ關スル罪

第二百四十七條 官吏、公吏其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ

權利ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮ニ處ス

第二百四十八條 裁判官、檢察官、警察官又ハ此等ノ職務ヲ行ヒ若クハ補助スル者其職權ヲ

濫用シ人ヲ逮捕、勾引又ハ監禁シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百四十九條 裁判官、檢察官、警察官又ハ此等ノ職務ヲ行ヒ若クハ補助スル者又ハ囚

人、監置人、懲治人ノ看守若クハ護送ノ職ニ在ル者刑事被告人、囚人、監置人又ハ懲治人

ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百五十條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從

テ處斷ス

第二百五十一條 水火、風震其他非常ノ事變ニ際シ囚人、監置人又ハ懲治人ノ看守若クハ護

送ノ職ニ在ル者避難ノ爲メ必要ノ處分ヲ爲サス又ハ爲サシメス因テ死傷ニ致シタル者ハ

刑法 罪名 神佛及ヒ死屍ニ關スル罪 官吏、公吏及ヒ議員ノ職務ニ關スル罪 四十五

傷害ノ罪ニ照シテ處斷ス

第二百五十二條 官吏、公吏、議員又ハ仲裁人其職務ニ關シテ賄賂其他財産上ノ利益ヲ取得シ又ハ之ヲ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役及ヒ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササル者ハ五年以下ノ懲役及ヒ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
裁判官又ハ仲裁人ナルトキハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前二項ノ場合ニ於テ賄賂其他財産上ノ利益ヲ取得シタル者其價額罰金ノ多額以上ナルトキハ其價額以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

第二百五十三條 官吏、公吏、議員又ハ仲裁人ニ賄賂其他財産上ノ利益ヲ贈與、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役及ヒ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條 官吏、公吏、議員又ハ仲裁人賄賂其他財産上ノ利益ヲ取得シ又ハ約束セスト雖モ情ニ徇カレ又ハ怨ヲ挾サミ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササル者ハ第二百五十二條第二項ノ例ニ依ル

第二百五十五條 官吏、公吏、議員又ハ仲裁人自己ニ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ利益ヲ得セシムル爲メ其職務ニ關スル秘事ヲ漏泄シタル者ハ三年以下ノ懲役及ヒ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十六條 第二百五十二條乃至第二百五十五條ノ罪ヲ犯シ一年以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科ス

第十一章 生命、身體ニ對スル罪

第一節 殺人ノ罪

第二百五十七條 人ヲ殺シタル者ハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第二百五十八條 前條ノ罪ヲ犯シタル者左ニ記載シタル情狀アルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

- 一 直系ノ尊屬親ニ對シテ犯シタルトキ
 - 二 豫メ謀テ犯シタルトキ
 - 三 二人以上ヲ殺シタルトキ
 - 四 支解、折割其他慘刻ノ行爲ヲ以テ犯シタルトキ
 - 五 重罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シテ其刑ヲ免カルル爲メ犯シタルトキ
- 第二百五十九條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
- 第二百六十條 人ヲ殺スノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ監視ニ付スルコトヲ得
- 第二百六十一條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ニ依リ之ヲ殺シタル者ハ七年

刑法 罪名 生命、身體ニ對スル罪 殺人ノ罪

以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百六十二條 本節ノ罪ヲ犯シ死刑又ハ無期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科スルコトヲ得一年以上ノ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視スルコトヲ得

第二節 傷害ノ罪

第二百六十三條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮若クハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

婦女ノ頭髮ヲ切斷又ハ毀損シタル者亦同シ

第二百六十四條 身體傷害ニ因リ左ノ結果ヲ生セシメタルトキ八十年以下ノ懲役ニ處ス

- 一 一目又ハ兩目ノ視能ノ喪失
- 二 一耳又ハ兩耳ノ聽能ノ喪失
- 三 語能ノ喪失
- 四 一肢以上ノ使用ノ不能
- 五 陰陽ノ不能
- 六 重大ニシテ不治ナル精神又ハ身體ノ疾病
- 七 流産

第二百六十五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ有期懲役ニ處ス

直系ノ尊屬親ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六十六條 前三條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セス

ト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

二人以上ニテ人ヲ傷害シ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハサルトキハ同謀者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百六十七條 暴行ヲ加フト雖モ人ヲ傷害スルニ至ラサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三節 過失殺傷ノ罪

第二百六十八條 過失ニ因テ人ヲ傷害シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百六十九條 過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十條 職務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 墮胎ノ罪

刑法 罪名 傷害ノ罪 過失殺傷ノ罪 墮胎ノ罪

第二百七十一條 婦女ヲシテ墮胎セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百七十二條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百七十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ六月以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百七十四條 醫師、産婆又ハ藥劑師、婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

婦女ノ囑託ヲ受ケ謝金ヲ得テ墮胎セシメタル者亦同シ
第二百七十五條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ六月以下ノ懲役ニ處ス

第五節 老幼者、疾病者ノ保護ヲ缺ク罪

第二百七十六條 老幼又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
第二百七十七條 老幼、幼者又ハ疾病者ヲ保護ス可キ責任アルモノ之ヲ遺棄シ又ハ其生存

ニ必要ナル保護ヲ爲ササル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

直系ノ尊屬親ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百七十八條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百七十九條 扶助ヲ要ス可キ老幼、幼者又ハ疾病者ヲ現場ニ發見シタル者故ナク之ヲ扶助セス又ハ當該ノ官吏若クハ公吏ニ申告セサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十二章 自由ニ對スル罪

第一節 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百八十條 擅ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
若シ飲食、衣服ヲ屏去シ又ハ毆打其他苛刻ノ行爲ヲ施シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二節 脅迫ノ罪

第二百八十二條 人ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シタル者ハ

刑法 罪名ニ老幼者、疾病者ノ保護ヲ缺ク罪 自由ニ對スル罪 逮捕及ヒ監禁ノ罪 脅迫ノ罪

一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シタル者亦同シ

第二百八十三條 暴行ヲ用ヒ又ハ生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シ人ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百八十四條 本節ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三節 人ヲ略取スル罪

第二百八十五條 父母又ハ其他ノ監督者ノ承諾ナクシテ二十歳未滿ノ幼者ヲ略取シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

偽計又ハ威力ヲ用ヒ父母又ハ其他ノ監督者ノ承諾ヲ得テ略取シタル者亦同シ

第二百八十六條 營利ノ目的ヲ以テ偽計又ハ威力ヲ用ヒ人ヲ略取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ偽計又ハ威力ヲ用ヒ人ヲ略取シタル者亦同シ

第二項ノ罪ハ被害者又ハ親族ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但略取セラレタル者婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻不成立又ハ無効ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

第二百八十七條 營利ノ目的ヲ以テ被略取者ヲ收受シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十八條 國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取シ又ハ賣買シタル者ハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

略取又ハ賣買セラレタル者ヲ國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百八十九條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三章 名譽ニ對スル罪

第二百九十條 惡事醜行アリトシテ公然之ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス六月以下ノ懲役又ハ禁錮若クハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ルニ非サレハ之ヲ罰セス

第二百九十一條 惡事醜行ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百九十二條 本章ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親族若クハ遺族ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章 財産ニ對スル罪

刑法 罪名 人ヲ略取スル罪 名譽ニ對スル罪 財産ニ對スル罪

第一節 賊盜ノ罪

第二百九十三條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ再犯例ヲ適用ス

第二百九十四條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百九十五條 本節ノ罪ヲ犯シ死刑又ハ無期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ六月以上ノ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付ス六月未滿ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

第二百九十六條 直系ノ親族及ヒ同居ノ親族互ニ本節ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免シ其他ノ親族ニ係ルトキハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但共犯者ハ此限ニ在ラス
強盜ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第二百九十七條 自己ノ財物ト雖モ質權又ハ留置權ニ因リ他人ノ占有ニ屬シ又ハ官署若クハ公署ノ命ニ依リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ他人ノ財物ヲ以テ論ス

第一款 竊盜ノ罪

第二百九十八條 人ノ動産ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二款 強盜ノ罪

第二百九十九條 暴行ヲ用ヒ又ハ現ニ被害者又ハ被害者ニ於テ救護ス可キ者ノ生命、身體、

自由若クハ財産ニ對シ危害ヲ加ヘント脅迫シテ人ノ動産ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第三百條 前條ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百一條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第三百二條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第三百三條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ其刑ヲ免カルル爲メ臨時暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百四條 人ヲ昏醉セシメテ其動産ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百五條 強盜ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ監視ニ付ス
第三款 恐喝盜ノ罪

第三百六條 第二百九十九條ニ記載シタル以外ノ脅迫ヲ用ヒ人ノ動産ヲ強取シタル者ハ恐喝盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百七條 前條ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ恐喝盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

刑法

罪名 賊盜ノ罪 竊盜ノ罪 強盜ノ罪 恐喝盜ノ罪

者ハ恐喝盜ヲ以テ論ス

第四款 詐欺盜ノ罪

第三百八條 人ヲ欺罔シテ動産ヲ騙取シタル者ハ詐欺盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス
第三百九條 前條ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得ヒシメタル者ハ詐欺盜ヲ以テ論ス

第三百十條 未成年者ノ知慮淺薄ニ乘シテ其財物ヲ授與セシメ又ハ不法ニ財産上ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ詐欺盜ヲ以テ論ス

第二節 占有物横領ノ罪

第三百十一條 他人ノ爲メ占有スル動産又ハ不動産ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ動産ト雖モ官署又ハ公署ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

第三百十二條 業務上他人ノ爲メ占有スル動産又ハ不動産ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ六月以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付ス

第三百十三條 遺失物、漂流物其他他人ノ占有ヲ離レタル動産ヲ得テ之ヲ横領シタル者ハ第

三百十一條ノ例ニ依ル

第三百十四條 本節ノ罪ニハ第二百九十六條第一項ヲ適用ス

第三百十五條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ再犯例ヲ適用ス

第三節 贓物ニ關スル罪

第三百十六條 犯罪ニ係ル贓物ヲ受ケタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

若シ寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
本條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ再犯例ヲ適用ス

第三百十七條 前條ノ罪ヲ犯シ六月以上ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付ス六月未満ノ懲役ニ處ス可キ者ニハ剝奪公權ヲ科シ之ヲ監視ニ付スルコトヲ得

第三百十八條 直系ノ親族又ハ其配偶者若クハ同居ノ親族ノ間ニ於テ第三百十六條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免ス

第四節 財物毀棄ノ罪

第三百十九條 官署又ハ公署ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

權利又ハ義務ニ關スル人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ告訴

刑法 罪名 詐欺盜ノ罪 占有物横領ノ罪 贓物ニ關スル罪 財物毀棄ノ罪 五十七

ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百二十條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ不法ニ毀壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十一條 前二條ニ記載シタルヨリ以外ノ物ヲ毀損傷害シタル者ハ二年以下ノ懲役

又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百二十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ又ハ物權ヲ設定シ若クハ保險ニ付シタルモノ

ヲ毀損シタルトキハ第三百十九條乃至第三百二十一條ノ例ニ依ル

ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百二十條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ不法ニ毀壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百二十一條 前二條ニ記載シタルヨリ以外ノ物ヲ毀損傷害シタル者ハ二年以下ノ懲役

又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百二十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ又ハ物權ヲ設定シ若クハ保險ニ付シタルモノ

ヲ毀損シタルトキハ第三百十九條乃至第三百二十一條ノ例ニ依ル

東京專門學校

政治經濟科

政治經濟史學公法私法等ニ關スル學理ヲ解説シ一般人民ニ立憲國民ノ本分ヲ盡シ一身一家ノ經營ニ必要ナル學術上ノ素養ヲ與フルヲ以テ其目的トス殊ニ本學年ハ種々ノ新設備ヲ爲シ正課

目中心學研究法英國憲法史民法要論金融最近時外交史國際私法等翻譯課目中ニハ治水利度山林制度工業制度道路制度等ノ英國殖民事情ハるじをす氏ノ比較憲法論等參考課目中ニハ治水制度山林制度工業制度道路制度等ノ講義ヲ加フ其高尚ノ學理ヲ平易ニ説明スルハ本講義ノ特色ナリ

法律科

新法典調查ノ功ハ漸ク完成ノ域ニ達セントス本講義錄ハ此機ニ乘テ一大改良ヲ施シ法典調查會委員鳩山穂積梅土方ノ諸博士勝本志田山田ノ諸學士刑法及

刑事訴訟法改正委員古賀石渡兩學士高田鈴木今村羽生本多等ノ諸學士國際

法專家寺尾有賀兩學士其他碩學ノ講義ヲ揭ケ特別及參考課ニハ新法典ニ良好ノ參考書タル

ぶるノ獨逸商法論及大審院ノ政裁判所等ノ判決例ヲ加ヘ新ニ警察制度監獄制度論ヲ掲載ス

行政科

法律科ニ掲載スル諸課目ノ外特ニ行政學經濟學等ノ講義ヲモ併載ス左レハ

法律上ノ常識ヲ得ルト同時ニ行政理財諸學科ノ素養ヲ得ントスル者ハ勿論官吏公吏銀行

文官試驗及普通文官試驗ニ應ゼントスル者ノ好材料タルハ勿論官吏公吏銀行

會社等ニ從事スル者ニハ特殊ノ便利アリトス

文學科

ハ哲學心理倫理審美教育宗教史學美辭學國文學漢文學英文學等ノ諸講義ヲ揭

載シ其目的和漢洋三文學ノ調和ヲ謀リ高義ニ所謂文學思想ノ普及ヲ計ルニ

リ本學期ヨリ新ニ比較宗教學歷史考法最近心理學論理學原理解育學原理ヲ

加ヘ參考課ニハ時々諸名家ノ有益ナル講義筆記ヲ載ス學說ノ嶄新ニシテ正確ナルト文章ノ雅馴ニシ

テ普通文ノ模範タルトハ特ニ力ヲ用フル所ナリ

英語通信教授錄

ハ本校內學生ニ授ケテ近キニ在ル英語通信教授錄ヲ附シ讀者ヲシテ英語ノ會話ヲ文讀

又校外學生ニ授ケテ近キニ在ル英語通信教授錄ヲ附シ讀者ヲシテ英語ノ會話ヲ文讀

クル朝野名家ノ授ケテ近キニ在ル英語通信教授錄ヲ附シ讀者ヲシテ英語ノ會話ヲ文讀

問テ爲シ懸賞文業ノハ卒業生ノ以上ノ特權アリ

去十月 初旬(一年二年三年ニ分チ) 第壹號 有志者ハ此際至急申込ヘシ詳細ハ改正

規則書(希望者通知)ニ就テ知ルベシ ●東條五十錢三ヶ月前納壹圓四十錢半ク年貳圓七十五錢

明治三十一年一月 東京牛込 早稻田 東京專門學校

毎月 十日 發行

外交時報

定價 一冊 十錢
六冊前金 五十七錢
十二冊前金 一圓八錢
外に郵税一冊一錢宛

外交の難は時々刻々 後數年間我が 極東は國際紛擾の最中

心點 たらんとすること最近二月の事蹟に徴して昭なり、我が帝國の運命は此の數年の措置如何に依

りて定まるか、此の時に當り彼れ我れと知るも我れ彼れと知らざるは海水を踏むよりも尙ほ危

し、而して列國外交局面の千變万化を窺ふは最も緊切之を知

期に後れず、爾も事容易の業に非ず、顧みて我邦の狀態を察するに官民の外交事情に暗く、本邦外交

機關の極めて微細なるを見て邦家の爲め實に寢食に安せざるものあり、余や戦後に於て西遊の機會を得

る再度、彼れに比して我れが劣れるを知ること愈々切なり、微力各國外交上の刊行

物と外國交友の報道と來二月十日第壹號と發行し名

交時報と曰はんを欲す、收利の爲めにするに非ず、政黨に關係あるに非ず、國際法及外交を以て

専門とする者の責守を盡さんとすのみ、以て同志愛國の士を益するを得は幸何そ過きん

明治三十一年一月 主筆 東京專門學校講師國 際法研究會員文學士 有賀長雄手記

發行所 東京牛込早稻田東京 專門學校出版部内 外交時報社

明治三十一年一月廿一日印刷
明治三十一年一月廿四日發行

定價金四拾錢

發行所 東京市牛込區矢來町三番地 小久江成一

印刷者 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 佐久間 衡 治

印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 秀英舎第一工場

發行所 東京府豊多摩郡戸塚村大字下戸塚六百四十七番地 東京專門學校出版部

賣捌所 東京市神田區一ツ橋通町七番地 有 斐 閣

全 東京市神田區表神保町三番地 東 京 堂

明治三十一年一月廿一日印刷
明治三十一年一月廿四日發行

定價金四拾錢

發行者

東京市牛込區大塚町三番地
小久江成一

印刷者

東京市牛込區大塚町一丁目十二番地
佐久間衛治

印刷所

東京市牛込區大塚町二丁目十二番地
秀英會第一工場

發行所

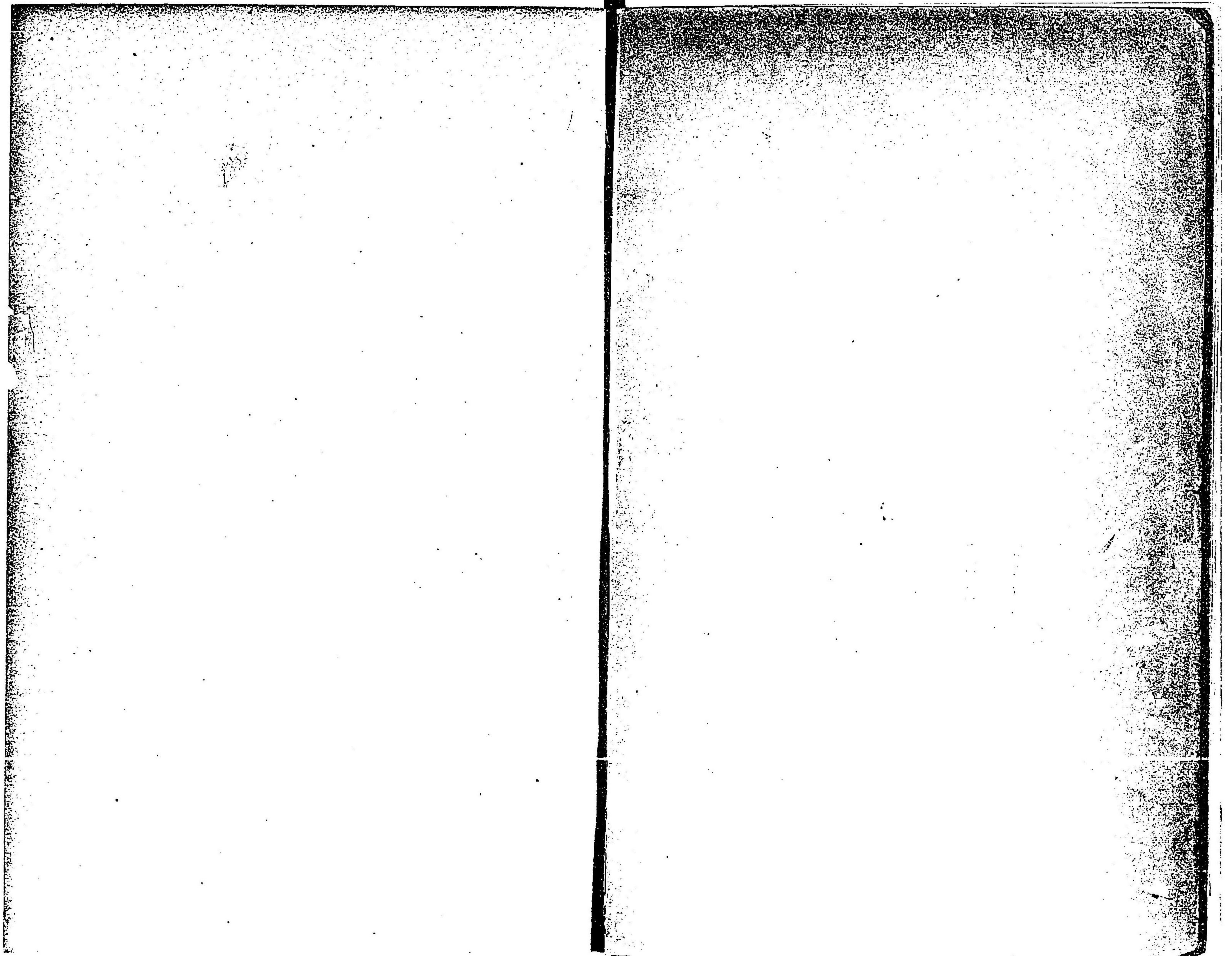
東京市牛込區大塚町一丁目十二番地
東京專門學校出版部

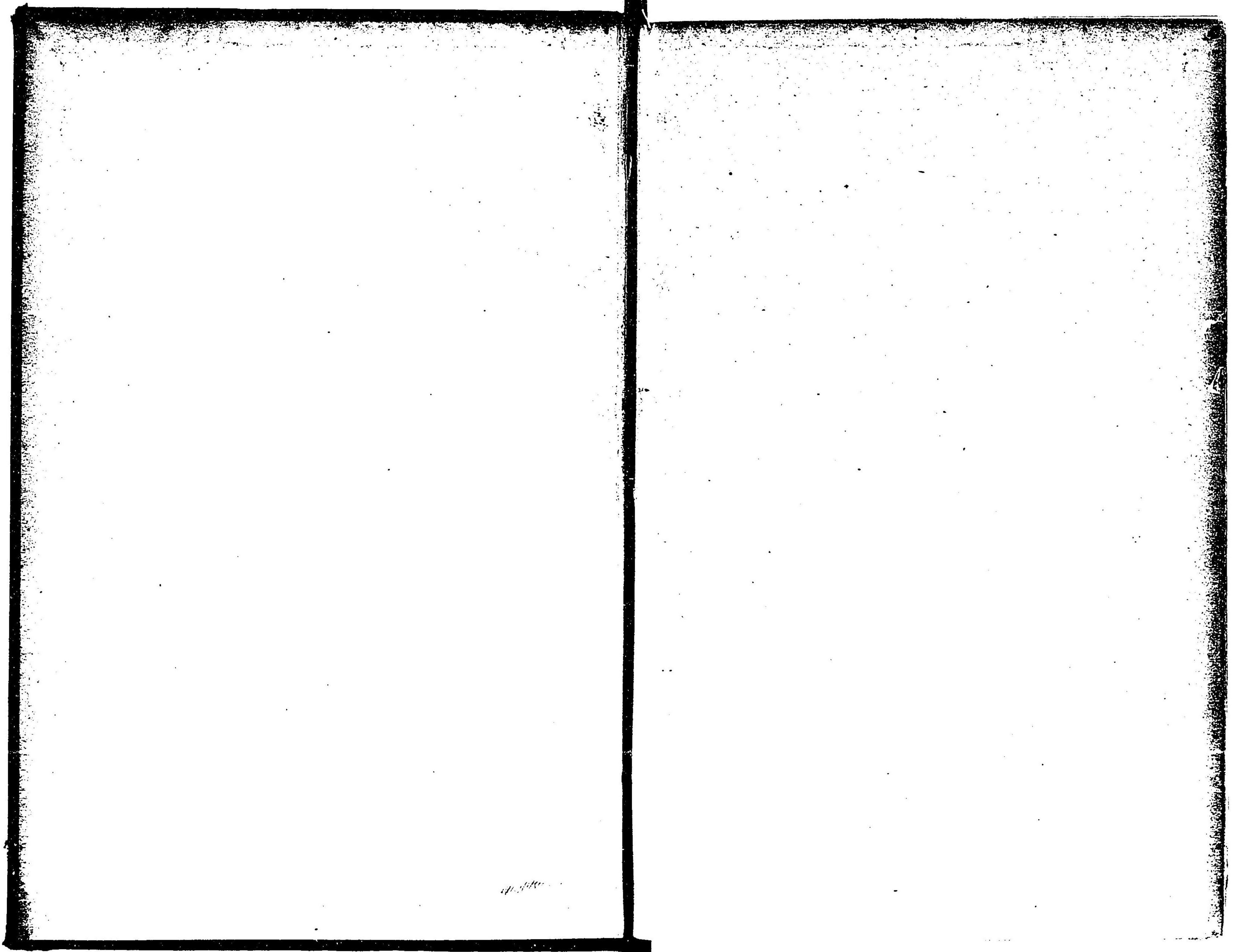
賣捌所

東京市神田區一ツ橋町七番地
有斐閣

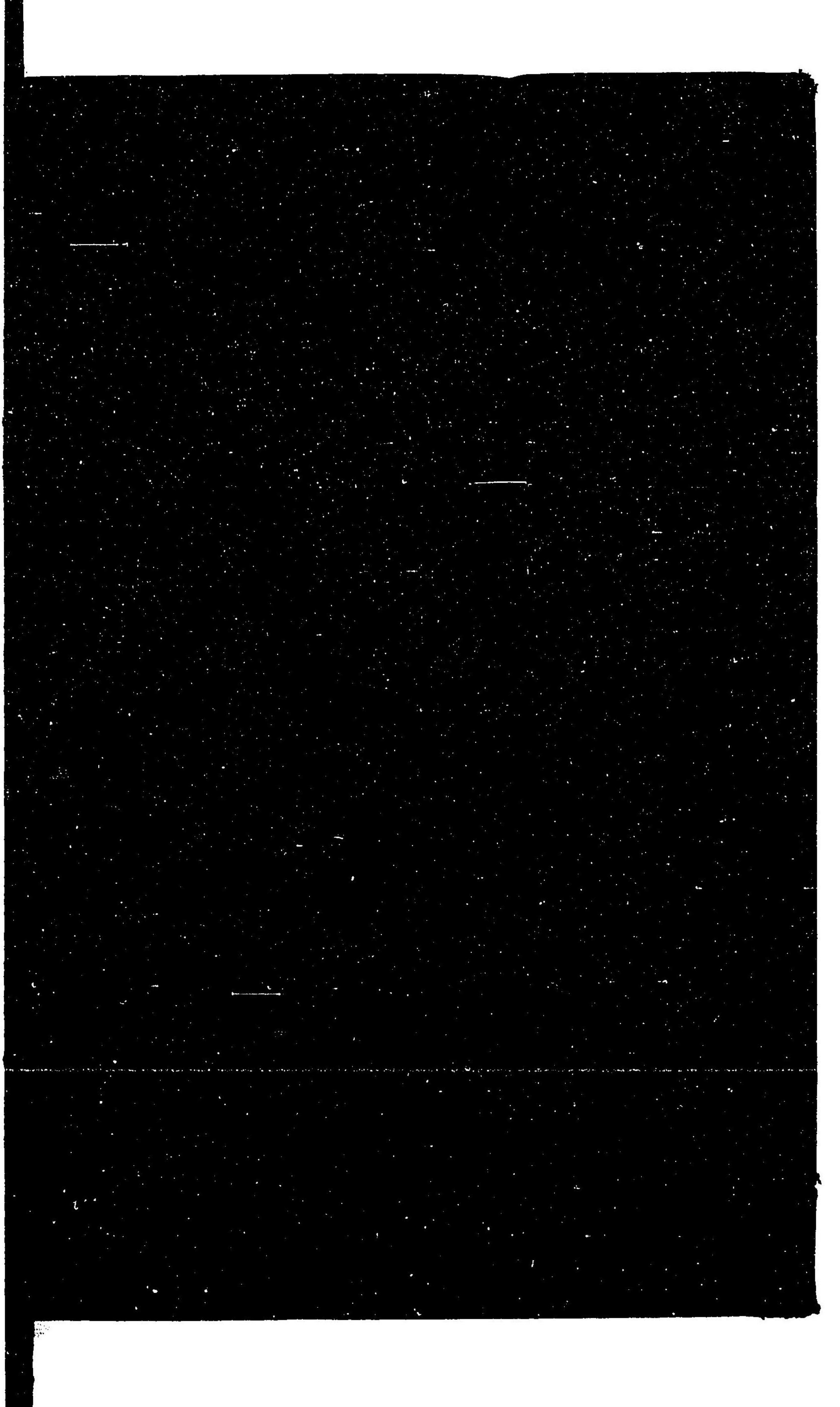
全

東京市神田區神保町五番地
東京堂





11/11/11



77
141

031132-000-6

77-141

法例民法商法刑法 一修正草案一

東京専門学校出版部

M3 1

BBC-1101



77
141